

# 下関市文化財年報 1

埋蔵文化財編

—平成30(2018)年度～令和2(2020)年度の記録—

2025

下関市教育委員会



## 序 文

下関市では、「可能性を築くまち。」を基本理念とし、その実現に向けたまちづくりを推進しております。その根幹となる教育について、本市教育委員会では「CHANCE（可能性） CHALLENGE（挑戦） CREATE（創造） ～ふるさと下関に誇りと愛情 未来を拓く 一人ひとりの学び～」を教育理念とし、様々な課題に取り組んでいるところです。

そして、この理念を具現化するために基本目標、及び目標達成のための基本方針をそれぞれ定め、具体的な施策を展開しています。

文化財保護課では基本目標の一つである「生涯を通じた学ぶ機会を提供します」を達成するため、基本方針として「文化財保護・活用の推進」を定め、ふるさと下関に対する愛着を育み、都市の魅力を高め、地域の活性化と交流人口の拡大に資するための取り組みを実施いたしております。

このたび刊行する「下関市文化財年報1 埋蔵文化財編」は、その取り組みのひとつである平成30年度から令和2年度に実施した埋蔵文化財の調査や活用についてまとめたものです。

本書が市民の皆様のふるさと学習の一助となり、加えて本市の文化財保護行政に対するご理解を深めていただく契機となりましたなら幸いです。

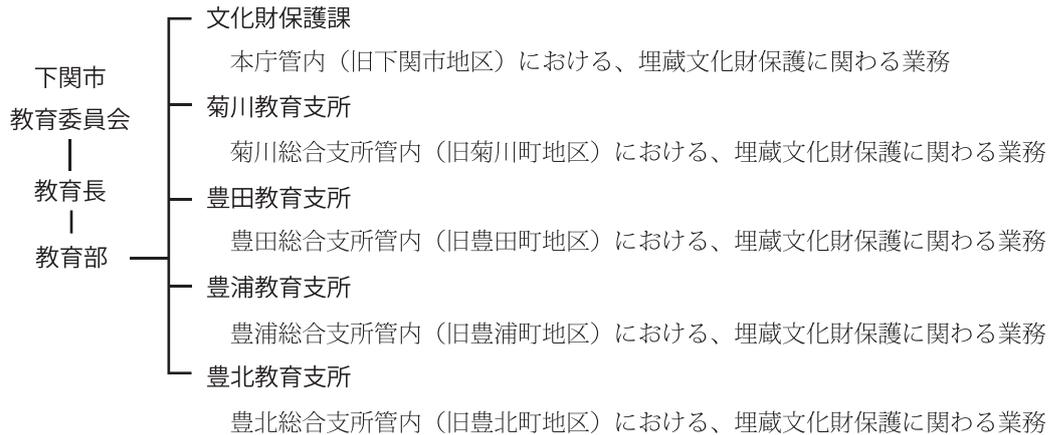
令和7年6月

下関市教育委員会

教育長 磯部 芳規

## 例 言

1. 本書は、下関市教育委員会が行った平成30年度から令和2年度までの埋蔵文化財に関する業務について概要を記したものである。
2. 平成30年度から令和2年度の下関市教育委員会における、埋蔵文化財に関わる機構および事務分掌は以下のとおりである。



3. 図3～11は、下関市編修「下関市管内図（1：50,000）」を使用した。
4. 本書で使用した地図の方位と経緯度は世界測地系による（図1を除く）。
5. 表10～15の番号は、図3～11の番号と共通する。
6. 各調査概要のタイトルは、「番号／対象遺跡名（地区名）／遺跡略号（アルファベット3文字か2文字）」を示す。  
また、各調査概要の図・写真・表の番号は、章 - 各調査概要の番号 - 図、写真、表の各通し番号を付ける。
7. 掲載遺構については、調査毎に付した遺構の略号と3桁数字（遺構通し番号）で表記する。略号については、以下の種類を示す。  
LK：土坑 LD：溝・溝状遺構 LS：竪穴住居 LG：土坑墓
8. 掲載遺物を遺物種別略号と6桁数字（遺物通し番号）で表記した場合、略号は以下の種類を示す。  
J：縄文土器 H：土師器・土師質土器 U：須恵器 G：瓦器・瓦質土器 C：輸入陶磁器  
N：国産陶器（古代の施釉陶器） L：国産陶磁器（近世～近代） R：瓦 W：木製品 S：石製品  
M：金属製品
9. 各調査概要に使用した「調査対象地の位置（1：10,000）」図は下関市編修（2010年）の「下関都市計画図（1：10,000）」を基図とする。なお、方位は上を座標北とする。
10. 概要報告の内容については本書刊行時の所見である。
11. 各概要の執筆および編集は、調査担当者と阿南が共同で行なった。

## 目 次

I	埋蔵文化財保護に関わる概要（平成30年度～令和2年度）	1
	（1）埋蔵文化財包蔵地について	1
	（2）埋蔵文化財保護に係る組織体制	1
	（3）埋蔵文化財調査実績	3
	（4）普及啓発関係	5
II	平成30年度実施の主要調査概要	18
	1 （未周知）坂磯遺跡ほか近接地 KG	18
	2 延行条里遺跡（松ノ木地区） WAN	21
III	平成31年度・令和元年度実施の主要調査概要	23
	1 金子遺跡 KKK	23
	2 （未周知）下有富遺跡近接地・有富中尾遺跡 WAA	26
	3 長門国分寺跡 NKF	29
	4 （未周知）田畑遺跡近接地 IT	32
	5 （未周知）松原遺跡近接地・侍町遺跡 CSM	33
IV	令和2年度実施の主要調査概要	35
	1 上げ安岡遺跡 SAS	35
	2 長門国府跡・長門国分寺跡 NKF	39
	3 （未周知）官林山古墳近接地・安岡胡麻田遺跡近接地 安岡長久遺跡 SYN	49
	4 秋根遺跡 KAN	54

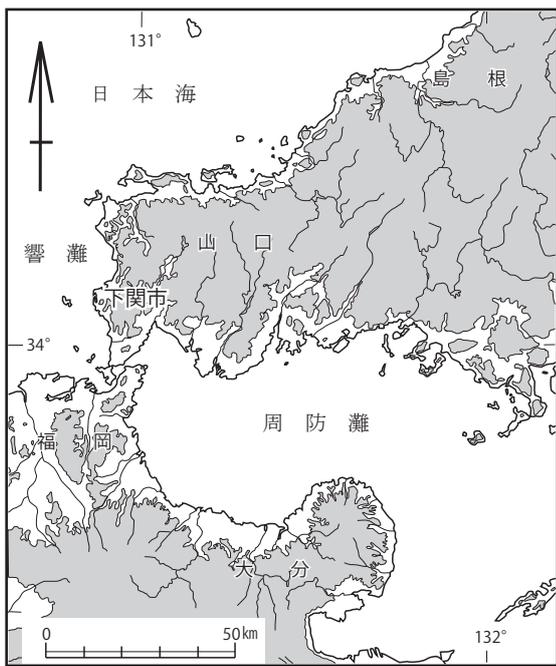


図 1 下関市周辺図 (1 : 2,000,000)

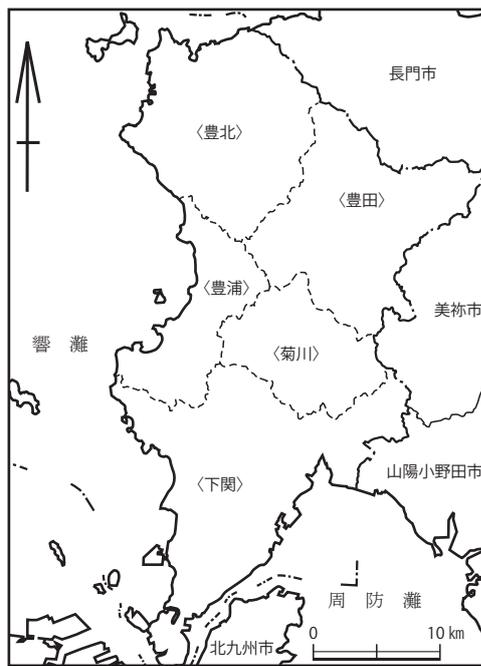


図 2 下関市全図 (1 : 600,000)

## I 埋蔵文化財保護に関わる概要（平成 30 年度～令和 2 年度）

### （1）埋蔵文化財包蔵地について

下関市には令和 2 年度末時点で 648 ケ所の周知の埋蔵文化財包蔵地が存在する。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外で実施した分布調査や試掘・確認調査等の成果により新たに遺跡の分布が確認されることで、周知の埋蔵文化財包蔵地の件数は増加している。

平成 30 年度から令和 2 年度は、下関市と山口県がそれぞれ実施した試掘調査と山口県が実施した中世城館遺跡総合調査により新規登録が 11 件、登録内容の変更が 12 件あった。

また、埋蔵文化財包蔵地件数の誤りを確認したため、令和 3 年度に集計値を修正した。

### （2）埋蔵文化財保護に係る組織体制

下関市の埋蔵文化財保護に関する業務は、教育委員会が所管する。下関市では平成 17 年の合併以降、旧豊浦郡四町（旧菊川町、旧豊田町、旧豊浦町、旧豊北町）管内の教育行政については、各教育支所の所管業務として行っている。なお、各教育支所には埋蔵文化財専門職員の配置がないため、随時文化財保護課と連携を図り取り組んでいる。

埋蔵文化財の取り扱いについて文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）では、周知の埋蔵文化財包蔵

表 1 埋蔵文化財包蔵地の新規登録・変更一覧（平成 30 年度～令和 2 年度）

年度	概要	
平成 30 年度	新規登録	本庁管内：「松屋里遺跡」「山田遺跡」 豊田総合支所管内：「橋本遺跡」「宮ノ前遺跡」「槇の尾遺跡」
	変更	（範囲変更） 本庁管内：吉田馬場遺跡
平成 31・令和元年度	新規登録	本庁管内：「有富中尾遺跡」「侍町遺跡」「展視山城跡」 菊川総合支所管内：「金蔵山城跡」「上保木城跡」
	変更	（範囲変更） 本庁管内：「金子遺跡」「勝山城跡」 菊川総合支所管内：「岡枝茶臼山城跡」 豊田総合支所管内：「諏訪山城跡」 豊浦総合支所管内：「川棚茶臼山城跡」「烏山城跡」 豊北総合支所管内：「城山城跡」「竜山城跡」  （名称変更） 本庁管内：「小唐櫃山城跡〔旧：大唐櫃山城跡〕」「大唐櫃山城跡〔旧：小唐櫃山城跡〕」  （範囲および名称変更） 菊川総合支所管内：「下大野城跡〔旧：下大野石棺〕」
令和 2 年度	新規登録	なし
	変更	なし

地内での土木工事に際し、埋蔵文化財発掘の届出（第93条第1項）ならびに通知（第94条第1項）が義務付けられている。

下関市教育委員会では土木工事の計画策定に際し、埋蔵文化財の分布状況を把握するための照会制度を設けている。平成29年度以降、照会件数は年平均197件のペースで増加し、令和2年度は1720件の照会があった（文化財保護課が対応した件数の集計値）。

主な照会の理由は「不動産調査および土地売買」、「個人住宅建築」、「集合住宅建築」、「電柱の新設および移設」、「太陽光発電施設の設置」、「水道工事」、「携帯電話基地局の設置」などがみられた。幅広い業種の事業者が事業計画時に埋蔵文化財包蔵地の状況について、事前確認の必要性を認識していることが窺える。

また、1,000㎡以上の開発行為に伴う開発事前協議の件数に大きな増減はみられない。主な開発行為の内容としては「宅地造成工事」などがある。

文化財保護課では、事業計画者の事前照会に際して埋蔵文化財発掘の届出および通知の提出義務の徹底を促しており、事前照会制度は開発事業と埋蔵文化財保護の円滑な調整を行う第1段階の手続きとして、重要な役割を担っている。

埋蔵文化財包蔵発掘の届出および通知件数は、平成29年度以降、民間事業に伴う埋蔵文化財発掘の届出は年平均47件のペースで増加し、令和2年度は181件の届出があった（文化財保護課が対応した件数の集計値）。主な届出理由としては「個人住宅建築」、「集合住宅建築」、「既存建物の解体」、「電柱の新設および移設」などがみられた。

届出件数増加の要因として、近年、市内で宅地造成が相次ぎ、新たにできた宅地に住宅が新築されたこと、またそれに伴う電気設備工事など、インフラ関連の工事件数が増加したことが考えられる。

また、公共事業に伴う発掘の通知の件数に大きな増減はみられない。主な届出理由としては、「水道工事」、「道路拡幅工事」、「災害復旧工事」、「ブロック塀撤去及び新設工事」などがみられた。

表2 平成22年度～令和2年度  
分布照会・開発事前協議件数の推移

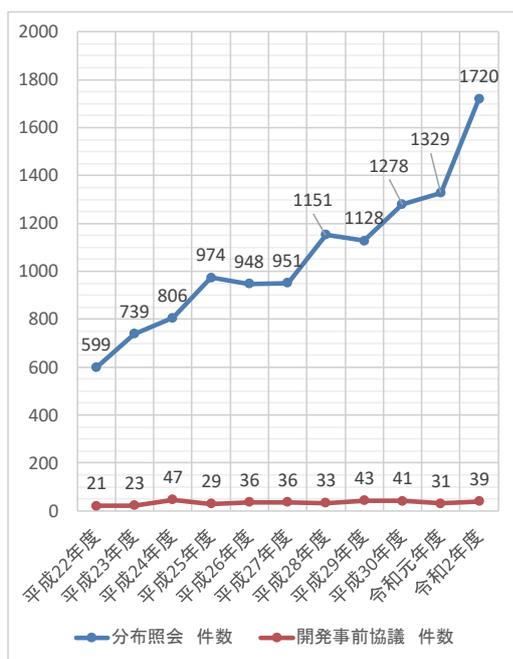
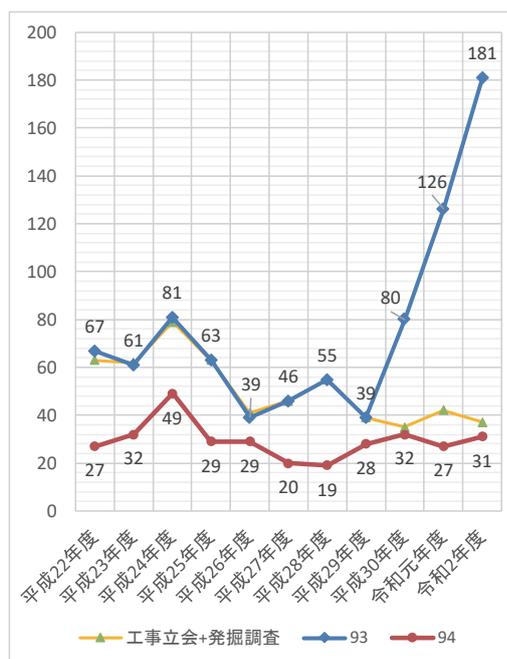


表3 平成22年度～令和2年度  
発掘届（93条の1）・通知（94条の1）及び調査件数の推移



### (3) 埋蔵文化財調査実績

平成30年度以降の埋蔵文化財調査の件数は概ね横這いの傾向を示した。

届出件数が大幅に増加する一方で調査件数に大きな変動がみられなかった要因として、届出の大半が軽微な施工内容で、かつ埋蔵文化財に影響する可能性が極めて低いと判断されたことや、事前協議の際に過去の調査状況と事業計画を踏まえて実施した確認調査の結果を事業者に提示して埋蔵文化財の損壊の回避もしくは軽減を求めたことなどが考えられる。

また、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲外に分布する未確認の埋蔵文化財についても随時状況把握を進めた。平成30年度～令和2年度中については、令和元年度に実施した試掘調査により「有富中尾遺跡」と「侍町遺跡」が新規登録された。市内で工事を計画する事業者や地権者に文化財保護の必要性を理解していただき、協力を得ることで、市内の埋蔵文化財の状況把握を進めることができた。

埋蔵文化財の調査成果をとりまとめた刊行物については、平成30年度から令和2年度までに発掘調査報告書3冊と埋蔵文化財年報1冊を刊行した。

表4 平成22年度～令和2年度の下関市内における埋蔵文化財調査実績の推移

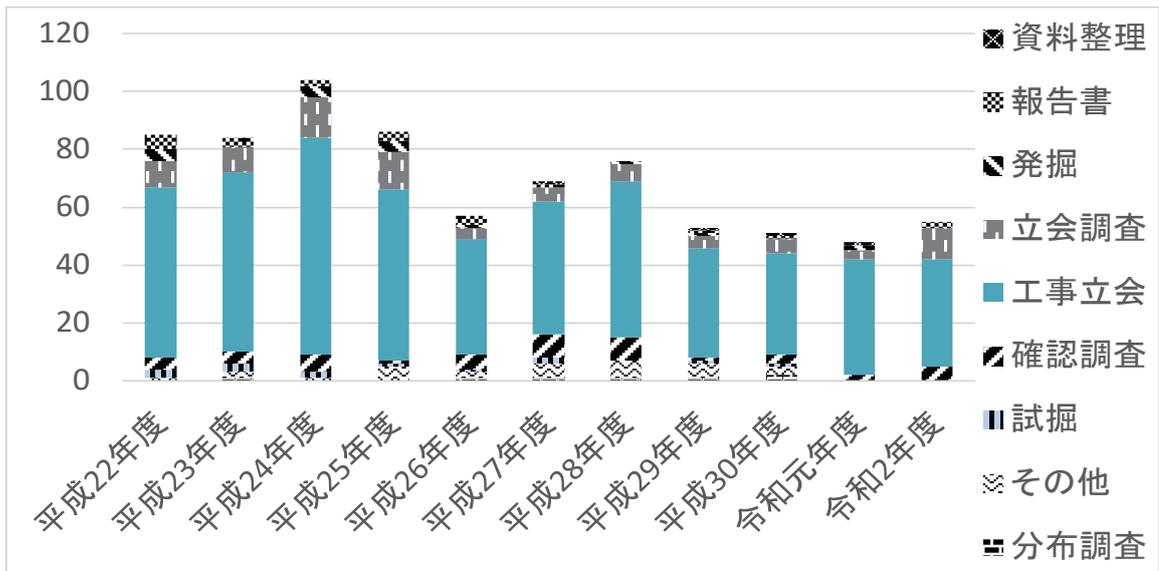


表5 平成30年度～令和2年度刊行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧表

年度	書名	体裁・部数	概要
平成30年度	丸小山墳墓群発掘調査報告書	A4版 24頁 300部	平成29年度に実施した丸小山墳墓群発掘調査の調査成果について整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行した。
	下関市埋蔵文化財年報10	A4版 50頁 600部	平成29年度の埋蔵文化財調査業務内容を報告し、埋蔵文化財調査の概要を6件掲載した。
令和2年度	有富中尾遺跡発掘調査報告書	A4版 80頁 300部	令和元年度に実施した宅地造成工事に伴う有富中尾遺跡発掘調査の調査成果について、整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行した。
	有富中尾遺跡発掘調査報告書	A4版 16頁 300部	令和元年度に実施した個人農地造成工事に伴う有富中尾遺跡発掘調査の調査成果について整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行した。

表 6 平成 30 年度の各地区管内における埋蔵文化財調査実績一覧

事業区分	本庁管内		菊川総合支所管内		豊田総合支所管内		豊浦総合支所管内		豊北総合支所管内		総合計		
	民間	公共	民間	公共	民間	公共	民間	公共	民間	公共	民間	公共	総件数
分布調査	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
試掘調査	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
確認調査	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
本発掘調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工事立会	26	3	0	0	0	0	2	4	0	0	28	7	35
立会調査	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	2	5
資料整理	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
報告書作成	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3
総件数	37	6	0	0	0	0	2	5	0	1	39	12	51

表 7 平成 31・令和元年度の各地区管内における埋蔵文化財調査実績一覧

事業区分	本庁管内		菊川総合支所管内		豊田総合支所管内		豊浦総合支所管内		豊北総合支所管内		総合計		
	民間	公共	民間	公共	民間	公共	民間	公共	民間	公共	民間	公共	総件数
分布調査	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
試掘調査	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
確認調査	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
本発掘調査	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
工事立会	34	5	0	0	1	0	1	1	0	0	36	6	42
立会調査	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
資料整理	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
報告書作成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
総件数	45	8	0	0	1	0	1	1	0	0	47	9	56

表 8 令和 2 年度の各地区管内における埋蔵文化財調査実績一覧

事業区分	本庁管内		菊川総合支所管内		豊田総合支所管内		豊浦総合支所管内		豊北総合支所管内		総合計		
	民間	公共	民間	公共	民間	公共	民間	公共	民間	公共	民間	公共	総件数
分布調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
試掘調査	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
確認調査	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
本発掘調査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
工事立会	26	1	1	0	0	0	0	6	1	0	28	7	35
立会調査	9	1	0	0	1	0	0	0	0	1	10	2	12
資料整理	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
報告書作成	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
その他	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	1	7
総件数	49	4	1	0	1	1	0	6	1	1	52	12	64

凡例（調査の区分）

- 分布調査：遺跡の分布を予察するための地表面観察を含む踏査
- 試掘調査：遺跡の有無を確認するための部分的な試し掘り
- 確認調査：遺跡の詳細を確認するための部分的な試し掘り
- 本発掘調査：記録・保存を目的とした発掘調査
- 工事立会：土木工事中の立会による遺跡の保存を目的とした記録作業
- 立会調査：土木工事の施工に合わせて実施する遺跡の有無を確認するための記録作業
- 資料整理：出土遺物の洗浄、復元等の室内整理作業
- 報告書作成：本発掘調査に伴う成果とりまとめ作業
- その他：上記以外の調査、作業（自然科学調査、地質調査、構造物調査等）

#### (4) 普及啓発関係

##### 1. 現地説明会

平成30年度から令和2年度は、現地説明会を実施していない。

##### 2. 公開普及活動

平成30年度から令和2年度は、前年度に実施した発掘調査などの成果を展示する「発掘速報展」のほか、国史跡「勝山御殿跡」関連イベントを開催した。

表9 普及啓発関係の実績一覧（平成30年度～令和2年度）

年度	活動名	日時	参加者	内容
平成30年度	発掘速報展 「掘ったほ！下関 2018」	平成30年 6月23日～ 9月2日	4,305人	平成29年度に実施した下関市内遺跡の発掘調査成果などについて、下関市立考古博物館特別企画展示室にて出土した遺物を展示し、併せてパネルなどで遺跡の説明を行なった。また、展示解説会を7月30日、8月26日の2日間、各日2回実施した。
	勝山御殿跡記念イベント	平成30年 11月24日～ 11月25日	500人	下関市明治維新150周年関連事業および平成30年11月16日に史跡指定の答申がなされた勝山御殿跡の史跡指定の記念イベントを勝山地区まちづくり協議会と共催で行った。勝山公民館から勝山御殿跡まで時代衣装を纏った行列を行なったほか、勝山地区周辺の各史跡を巡るウォークラリーなどを行い、勝山御殿跡の史跡指定を祝うとともに、勝山御殿跡の認知度の向上や勝山地区の歴史や文化への関心が深まるようなイベントを開催した。
平成31・ 令和元年度	発掘速報展 「掘ったほ！下関 2019」	令和元年 12月7日～ 令和2年 2月23日	3,535人	平成30年度に実施した下関市内遺跡の発掘調査成果などについて、下関市立考古博物館特別企画展示室にて出土した遺物を展示し、併せてパネルなどで遺跡の説明を行なった。また、展示解説会を12月14日、1月25日、2月15日の計3日間、各日2回実施した。また記念物100年参加事業として文化庁が企画する『記念物100年』パネル展示も同時開催した。
令和2年度	発掘速報展 「掘ったほ！下関 2020」	令和2年 8月8日～ 9月27日	1,419人	令和元年度に実施した下関市内遺跡の発掘調査成果などについて、下関市立考古博物館特別企画展示室にて出土した遺物を展示し、併せてパネルなどで遺跡の説明を行なった。

表 10 平成 30 年度の下関市内における埋蔵文化財調査実績一覧（1）

番号	調査番号	調査区分	調査対象遺跡	調査対象地	対象面積	原因者	担当者	調査期間	調査原因
1	2018020	試掘調査	(未周知) 坂磯遺跡ほか 近接地	秋根上町一丁目、二丁目、 大字秋根、大字形山	約 12ha	下関市新下関東土地区 画整理組合設立準備会	中山	2018.05.11～ 2018.09.27	組合施工 区画整理事業
2	2018034	確認調査	延行条里遺跡（松ノ木地区）	形山みどり町 189-2 ほか	2,954.81㎡	株式会社レジデンス	中山	2018.10.09～ 2018.10.25	宅地造成工事
	2018045	工事立会	延行条里遺跡（松ノ木地区）	形山みどり町 189-2 ほか	2,954.81㎡	株式会社レジデンス	中山	2019.01.07～ 2019.01.09	宅地造成工事
3	2018015	工事立会	長門国府跡	長府亀の甲一丁目 5 番 5	1,252.10㎡	緑都開発株式会社	藤原	2018.04.02～ 2018.09.06	宅地造成工事
4	2018016	その他	覚苑寺庫裏の鬼瓦	長府安養寺三丁目 3 番 8	-	-	小林	2018.04.11	資料調査
5	2018017	報告書	丸小山墳墓群	大字延行字幸地ヶ森 4 番 1	702.5㎡	有限会社喜崇	阿南	2018.04.01～ 2019.03.31	宅地造成工事
6	2018018	工事立会	綾羅木郷台地遺跡 （宝前地区）	大字綾羅木字宝前 401-5	239.25㎡	個人	藤原	2018.04.27～ 2018.09.06	住宅新築工事
7	2018019	工事立会	延行条里遺跡	大字石原 84-1、86-4、87-2、 91-1、97-1、97-5、100-1	2,767㎡	ディーエスアルフレッサ 株式会社	藤原	2018.05.01	開発造成工事
8	2018021	工事立会	西楠遺跡	赤池町 6 番 21	75.01㎡	宗教法入高林寺	藤原	2018.05.11～ 2018.05.30	納骨堂新築工事
9	2018022	工事立会	長門国府跡（宮の内地区）	長府宮の内町 5 番 43	677.11㎡	株式会社エミマス	藤原	2018.05.26～ 2018.05.31	既存建物解体工事
10	2018023	その他	長門国府跡	長府古江小路町	-	有限会社長多工業	藤原	2018.05.26	資料提供
11	2018024	工事立会	長門国府跡	長府亀の甲一丁目 1775-1	290.97㎡	個人	藤原	2018.05.29	住宅解体及び新築工事
12	2018025	確認調査	長門国府跡（宮の内地区）	長府宮の内町 5 番 43	677.11㎡	株式会社エミマス	藤原	2018.06.22～ 2018.07.11	宅地造成工事
13	2018026	工事立会	川棚条里跡	豊浦町大字川棚	480㎡	下関市北部建設事務所	藤原	2018.06.15～ 2018.09.28	道路改良工事 ※豊浦教育支所主担当
14	2018027	工事立会	延行条里遺跡	大字有富字平石 145 番 2 ほか 地内	約 0.3ha	株式会社アカマツ興産	藤原	2018.07.26～ 2018.08.27	宅地造成工事
15	2018028	工事立会	上げ安岡遺跡	安岡町七丁目 329	847.35㎡	個人	藤原	2018.07.27	住宅新築工事
16	2018029	その他	下関前田台場跡	前田一丁目 148-1 ほか	-	-	濱崎	2018.07.17	現状変更（柵列設置）
17	2018030	確認調査	長門国府跡（宮の内地区）	長府宮の内町 1869-1	933㎡	株式会社エミマス	藤原	2018.08.09～ 2018.10.05	宅地造成工事
18	2018031	工事立会	山田古墳	豊浦町大字川棚字石塔 1481-6 ほか	2,950㎡	個人	藤原	2018.08.20	宅地造成工事・ 集合住宅新築工事 ※豊浦教育支所調整
19	2018032	工事立会	伊倉遺跡	伊倉本町 623-7、 伊倉新町四丁目 4017-5	223.72㎡	個人	藤原	2018.09.05～ 2018.09.07	住宅新築工事
20	2018033	工事立会	伊倉遺跡	伊倉本町 623-1、 伊倉新町四丁目 4017-2	279.74㎡	個人	藤原	2018.09.14	住宅新築工事
21	2018035	工事立会	長門国府跡	長府亀の甲一丁目 1796-4	349.58㎡	株式会社アーネストワン	藤原	2018.09.20	住宅建設工事
22	2018036	工事立会	延行条里遺跡	秋根上町二丁目 550-19	164.31㎡	大英産業株式会社	中原	2018.09.28	住宅建設工事
23	2018037	工事立会	川棚条里跡	豊浦町大字川棚	24㎡	下関市上下水道局 北部事務所	中山	2018.10.16	公共下水道管布設工事 ※豊浦教育支所主担当
24	2018038	工事立会	延行条里遺跡	秋根上町二丁目 359 番 1 の一 部	386.61㎡	個人	藤原	2018.10.25	長屋建設工事
25	2018039	分布調査	(未周知) 四王司山	四王司山中	-	中国電力株式会社	中山 中原 藤原	2018.10.24	送電線建設工事

表 11 平成 30 年度の下関市内における埋蔵文化財調査実績一覧（2）

番号	調査番号	調査区分	調査対象遺跡	調査対象地	対象面積	原因者	担当者	調査期間	調査原因
26	2018040	工事立会	吉永遺跡	豊浦町大字黒井字下北岡 2157-1	990㎡	個人	藤原	2018.10.29～ 2018.12.06	住宅新築工事 ※豊浦教育支所調整
27	2018041	工事立会	長門国府跡、松原遺跡	長府侍町一丁目	1,777㎡	下関市上下水道局 上水工務課	中山	2018.11.09～ 2018.01.15	配水管布設工事
28	2018042	工事立会	川棚条里跡	豊浦町大字川棚	140㎡	下関市北部建設事務所	藤原	2018.11.08～ 2018.11.20	道路改良工事 ※豊浦教育支所主担当
29	2018043	工事立会	松小田原田遺跡	長府松小田中町 565-1	1,083.28㎡	ミサワホーム中国株式会社	藤本	2018.11.21	宅地造成工事
30	2018044	工事立会	宮の原遺跡	彦島迫町五丁目 6210 番 2	510.4㎡	下関市消防局警防課	藤原	2018.11.26～ 2019.03.14	消防機庫改築工事
31	2018046	立会調査	(未周知) 川棚条里跡 近接地	豊浦町大字川棚	418㎡	下関市北部建設事務所	中山	2018.12.12	公共下水道管布設工事 ※豊浦教育支所主担当
32	2018047	工事立会	延行条里遺跡	一の宮町二丁目 8-10、8-11、 8-12、8-13	1,244.71㎡	株式会社タイヘイ	藤原	2018.12.17	住宅新築工事
33	2018048	工事立会	神田遺跡	富任町 4 番 1 号	24㎡	山口県立下関工科高等学校 PTA 会長	藤原	2018.12.17	ガス空調設備設置に伴うガス 管引込工事
34	2018049	工事立会	北ヶ原遺跡	清末大門 2500 番 3 (261-1)	1,084㎡	ワークスキよすえ 協同組合	藤原	2018.12.20～ 2019.01.09	駐車場造成工事
35	2018050	資料整理	長門鋳銭所跡	-	-	-	濱崎	2018.04.01～ 2019.03.31	保存処理
36	2019001	立会調査	(未周知) 柴野遺跡 近接地	横野町二丁目 105 番 1	1,350.1㎡	井上建設株式会社	藤原	2019.01.15～ 2019.01.29	宅地造成工事
37	2019002	工事立会	高山古屋遺跡	古屋町一丁目 778-7	1,390.6㎡	社会福祉法人 中部少年学院	藤原 中山	2019.01.23	乳児院建設工事
38	2019003	工事立会	綾羅木郷台地遺跡 (木船地区)	大字綾羅木字木船 527-1	26.86㎡	個人	阿南	2019.01.25	給水管引込工事
39	2019004	工事立会	長門国府跡（宮の内地区）	長府宮の内町 5 番 43	677.11㎡	株式会社エミマス	藤原	2019.01.28～ 2019.01.29	宅地造成工事
40	2019005	工事立会	長門国分寺跡	長府宮の内町 1829 番 5 の一 部	277.76㎡	個人	藤原	2019.02.04	住宅解体工事
41	2019006	立会調査	(未周知) 田無手遺跡 近接地	豊北町大字角島	-	豊北総合支所 建設農林水産課	阿南	2018.11.24	擁壁設置工事
42	2019007	立会調査	(未周知) 彦島西山化石層 近接地	彦島西山町二丁目 6 番 4 号	1,163.4㎡	東建コーポレーション	藤原	2019.02.18	住宅建設工事
43	2019008	立会調査	(未周知) 杉田古墳 近接地	彦島江の浦町五丁目 12 番 8 号	-	MHI プラントエンジニ アリング&コンストラ クション株式会社	藤原	2019.02.19	石垣修繕及び擁壁設置工事
44	2019009	工事立会	宝蔵寺遺跡	豊浦町大字川棚	70㎡	下関市上下水道局 上水工務課	阿南	2019.02.18	水道管敷設工事
45	2019010	工事立会	梶栗浜遺跡	梶栗町四丁目、五丁目	-	-	藤本	2019.03.20～ 2019.03.25	史跡梶栗浜遺跡環境整備業務
46	2019011	分布調査	(未周知) 長府満珠町、妙見山、 杉谷台場跡、滑石閘門跡	大字松小田、大字勝谷、長府 四王司町、長府新四王司町、 長府松小田西町、長府満珠町、 長府満珠新町、大字豊浦町	-	中国電力株式会社	阿南 中原 中山 藤原	2019.03.20	鉄塔建替工事
47	2019012	工事立会	長門国府跡	長府亀の甲一丁目 1782-36	200.09㎡	個人	藤原	2019.03.22	住宅新築工事
48	2019013	工事立会	綾羅木馬場遺跡	大字綾羅木 948-1	500㎡	株式会社コプロス	中山	2019.03.25	下水道工事に係る仮置場造成 工事
49	2019014	工事立会	綾羅木郷台地遺跡 (木船地区)	大字綾羅木字木船 509 番 4	298.65㎡	個人	阿南	2019.03.25～ 2019.03.26	住宅新築工事
50	2019015	工事立会	延行条里遺跡	大字石原字上河原 43 番 1 ほか	1,713.41㎡	井上建設株式会社	藤原	2019.03.28～ 2019.04.09	宅地造成工事





図4 平成30年度埋蔵文化財調査対象地位置（安岡・川中・勝山地区）（1：50,000）



図5 平成30年度埋蔵文化財調査対象地位置（勝山・長府地区）（1：50,000）

表 12 平成 31・令和元年度の下関市内における埋蔵文化財調査実績一覧（1）

番号	調査番号	調査区分	調査対象遺跡	調査対象地	対象面積	原因者	担当者	調査期間	調査原因
1	2019019	確認調査	金子遺跡	大字勝谷金子 804 ほか	6.126㎡	株式会社 下関ハウジング	阿南	2019.05.13～ 2019.05.31	宅地造成工事
	2019061	工事立会	金子遺跡	大字勝谷金子 804 ほか	6.126㎡	株式会社 下関ハウジング	阿南	2019.10.07～ 2020.01.09	宅地造成工事
2	2019020	試掘調査	(未周知) 下有富遺跡 近接地	大字有富字中尾 236 ほか	5,526.71㎡	株式会社ヴィルセイン	阿南	2019.06.03～ 2019.07.29	宅地造成工事
	2019048	発掘調査	有富中尾遺跡	大字有富字中尾 236 ほか	772.28㎡	株式会社ヴィルセイン	阿南 藤原	2019.11.08～ 2020.03.19	宅地造成工事
	2019059	発掘調査	有富中尾遺跡	大字有富字中尾 238-3、4	392.38㎡	個人	阿南	2019.11.19～ 2020.03.19	農地造成工事
3	2019024	確認調査	長門国分寺跡	長府紺屋町 2 番 15 号、 2 番 27 号	1,001.41㎡	株式会社マルハニチロ アセット下関事務所	中山	2019.05.12～ 2019.07.02	既存建物解体工事
	2019038	工事立会	長門国分寺跡	長府紺屋町 2 番 15 号、 2 番 27 号	1,001.41㎡	株式会社マルハニチロ アセット下関事務所	中山	2019.08.01～ 2019.08.05	住宅解体工事
4	2019034	試掘調査	(未周知) 田畑遺跡 近接地	清末西町二丁目 1804	16㎡	個人	藤原	2019.07.23～ 2019.07.30	住宅新築工事
5	2019045	立会調査	(未周知) 松原遺跡 近接地	長府侍町二丁目 2794-4、 2796-17	1,243.80㎡	エムティネクスト 株式会社	藤原	2019.09.02～ 2019.10.17	既存建物解体工事
	2019060	工事立会	侍町遺跡	長府侍町二丁目 2794-4、 2796-17	1,243.80㎡	エムティネクスト 株式会社	中山	2019.11.26～ 2019.12.25	マンション建設工事
6	2019016	工事立会	長門国府跡	長府安養寺四丁目 1337-1	374.03㎡	個人	阿南	2019.04.08	建物除却工事
7	2019017	工事立会	梶栗遺跡	梶栗町五丁目 894 番 3 の一部	192.47㎡	個人	藤原	2019.04.10～ 2019.05.07	住宅建替工事
8	2019018	工事立会	綾羅木郷台地遺跡 (宝前地区)	大字綾羅木字宝前 401 番 7	248.45㎡	個人	藤原	2019.04.17	住宅新築工事
9	2019021	立会調査	南部山城跡	田中町	-	下関市上下水道局 上水工務課	阿南	2019.04.19	水道管敷設工事
10	2019022	資料整理	長門跡銭所跡	-	-	-	藤原	2019.04.01～ 2020.03.31	資料整理
11	2019023	工事立会	松小田原田遺跡	長府松小田中町 557 番 1 ほか	2,844㎡	有限会社高松コーポレー ション	藤原	2019.04.26	宅地造成工事
12	2019025	分布調査	松風山窯跡 功山寺遺跡	長府逢坂町 1944 ほか	-	(株式会社キット)	中原 太田	2019.05.08	不動産調査に伴う分布照会
13	2019026	工事立会	白土窯跡	豊田町大字八道字白土 333 番ほか 2 筆	7,079㎡	株式会社ウエストエネ ルギーソリューション	藤原	2019.05.15	太陽光発電所設置工事
14	2019027	立会調査	(未周知) 長門跡銭所跡 近接地	長府安養寺三丁目	1,856.60㎡	宗教法人覚苑寺	藤原	2019.05.16～ 2019.05.27	納骨堂建設工事
15	2019028	工事立会	長門国府跡	長府亀の甲一丁目 1782 番地 35、1782 番地 42	199.91㎡	個人	藤原	2019.05.22	住宅新築工事
16	2019029	工事立会	延行条里遺跡	一の宮町二丁目 2 番 2、 2 番 5	993.72㎡	有限会社エヌ・ケイ・ ハウジング	藤原	2019.05.24～ 2019.05.25	マンション新築工事
17	2019030	工事立会	梶栗遺跡	富任町七丁目 715 番 8	196.77㎡	個人	藤原	2019.06.12	住宅新築工事
18	2019031	工事立会	高山古屋遺跡	古屋町一丁目 778-1、778-3、 778-4、778-5	9,691㎡	株式会社下関地所	藤原	2019.06.26	学校校舎解体工事
19	2019032	工事立会	秋根遺跡	秋根本町二丁目 5 番 12、 5 番 13	554.05㎡	個人	藤原	2019.07.02	長屋建設工事
20	2019033	工事立会	重武屋敷遺跡	大字綾羅木 339	25㎡	綾羅木自治会	藤原	2019.07.10～ 2019.07.12	防火用水槽解体撤去工事
21	2019035	工事立会	綾羅木郷台地遺跡 (木船地区)	大字綾羅木字木船 509 番 5	244.39㎡	個人	中山 藤本	2019.07.17～ 2019.12.08	住宅新築工事
22	2019036	工事立会	綾羅木郷台地遺跡 (外そん地区)	大字綾羅木 367	25㎡	綾羅木自治会	藤原	2019.07.19	防火用水槽解体撤去工事
23	2019037	工事立会	重武屋敷遺跡	大字綾羅木 577-1	4㎡	綾羅木自治会	藤本	2019.07.25	防火用水槽解体撤去工事

表 13 平成 31・令和元年度の下関市内における埋蔵文化財調査実績一覧（2）

番号	調査番号	調査区分	調査対象遺跡	調査対象地	対象面積	原因者	担当者	調査期間	調査原因
24	2019039	工事立会	綾羅木郷台地遺跡 (中屋敷地区)	大字綾羅木 390 番 2	152.62㎡	個人	中山	2019.08.07～ 2019.09.17	住宅新築工事
25	2019040	工事立会	長門国府跡（亀の甲地区）	長府亀の甲一丁目 1782-36	168.98㎡	個人	藤原	2019.08.03～ 2019.10.16	住宅新築工事
26	2019041	工事立会	綾羅木郷台地遺跡 (寺屋敷地区)	大字綾羅木 500-1	25㎡	綾羅木自治会	藤原	2019.08.08～ 2019.08.09	防火用水槽解体工事
27	2019042	工事立会	伊倉遺跡	伊倉本町 27 番 17	809.91㎡	個人	藤原	2019.08.19～ 2019.08.20	既存建物解体工事
28	2019043	分布調査	吉母大河原地区	大字吉母（大河原地区）	-	下関市環境部 環境施設課	中原	2019.08.19	市道吉母・御崎線道路整備
29	2019044	工事立会	永福遺跡	大字小月町字岡 2136-1、 2136-7	1.349㎡	個人	藤原	2019.08.27	既存建物解体工事
30	2019046	立会調査	小池遺跡近接地	王喜本町一丁目 198 番 2	-	タマホーム株式会社	藤原	2019.09.14	住宅新築工事
31	2019047	工事立会	延行条里遺跡	大字有富字餅田 18 番 3 ほか	1,094.60㎡	株式会社キョーワ	藤原	2019.09.24	宅地造成工事
32	2019049	工事立会	綾羅木郷台地遺跡	大字綾羅木 225-2	205㎡	個人	中山	2019.10.11～ 2019.10.15	敷地境界擁壁設置工事
33	2019050	工事立会	延行条里遺跡	大字有富字津ノ地 82 番 10	204.32㎡	積水ハウス株式会社 山口支店	中山	2019.10.15	浄化槽設置工事
34	2019051	工事立会	延行条里遺跡	大字有富字津ノ地 83 番 2 の 一部	204.76㎡	積水ハウス株式会社 山口支店	中山	2019.10.16	浄化槽設置工事
35	2019052	工事立会	宮崎遺跡	長府宮崎町 2989-4	168.92㎡	個人	藤原	2019.10.15	住宅新築工事
36	2019053	工事立会	宮崎遺跡	長府宮崎町 2989-2	172.61㎡	株式会社レジデンス	藤原	2019.10.15	住宅新築工事
37	2019054	工事立会	長門国府跡	長府宮の内町 1754-5	202.80㎡	個人	藤原	2019.10.29	住宅建設工事
38	2019055	工事立会	永福遺跡	大字小月町	33㎡	下関市上下水道局 下水道整備課	中山	2019.10.29	公共下水道管布設工事
39	2019056	工事立会	伊倉遺跡	伊倉本町 625	893㎡	個人	藤原	2019.11.05	住宅新築工事
40	2019057	工事立会	玉塚遺跡	松屋本町一丁目、 松屋本町二丁目	270㎡	下関市上下水道局 下水道整備課	藤原	2019.11.08	公共下水道管布設工事
41	2019058	工事立会	永福遺跡	大字小月町	333㎡	下関市上下水道局 下水道整備課	中山 中原	2019.11.11～ 2020.01.21	公共下水道管布設工事
42	2019062	工事立会	北岡遺跡	豊浦町大字黒井字下北岡 2165-14、2165-29	88.60㎡	下関市教育委員会 豊浦教育支所	藤原	2019.12.03～ 2019.12.24	住宅建設工事
43	2019063	工事立会	火山城跡	大字藤ヶ谷無番地 (火の山公園内)	15㎡	下関市港湾局施設課	中原	2019.12.17～ 2020.02.05	公共業務用無線局舎設置工事
44	2019064	工事立会	梶栗遺跡	梶栗町五丁目 6 番 36	1,308.99 ㎡	日環特殊株式会社	藤本	2019.12.16～ 2019.12.23	既存建物解体工事
45	2020001	その他	史跡高杉晋作墓	大字吉田字永島 548-2、 550 番 1、551、553、554、 1155	-	株式会社中谷建設	藤原 中原	2020.01.07～ 2020.01.24	史跡現状変更 (スロープ・手すり設置)
46	2020002	工事立会	史跡長門踏銭所跡	長府安養寺三丁目 1276-8	66.1㎡	宗教法人覚苑寺	藤原	2020.02.04	史跡現状変更（参道整備）
47	2020003	その他	六連島音次郎遺跡	大字六連島字音次郎	-	-	中原	2020.02.13	(現地確認)
48	2020004	工事立会	長門国府跡	長府亀の甲二丁目 1436-4、 1436-5	382.44㎡	大英産業株式会社	中山	2020.03.11	住宅 2 棟新築工事
49	2020005	工事立会	北ヶ迫遺跡	小月幸町 2631- 1、2631- 4、 2631- 5 の一部	233.42㎡	個人	藤原	2020.03.11	住宅新築工事
50	2020006	工事立会	吉母浜遺跡 (吉母海岸植物群落)	大字吉母字砂留 401 番 1、 大字吉母字西条 453 番 25、 大字吉母字西条 453 番 26	126.27㎡	中国電力株式会社 下関営業所	中原	2020.02.03～ 2020.03.31	吉母～蓋井島間 海底ケーブル張替工事

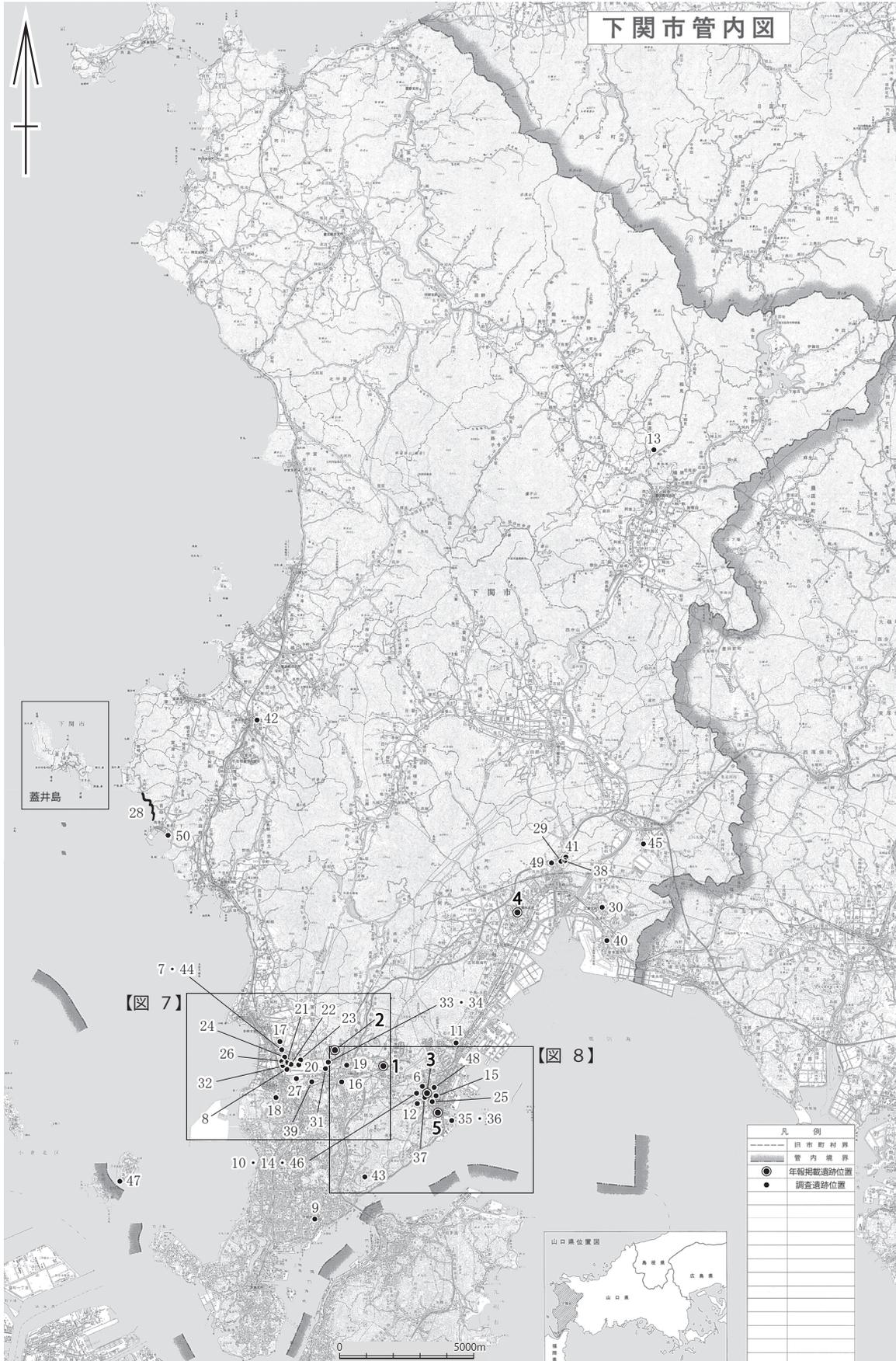


図 6 平成 31・令和元年度埋蔵文化財調査対象地位置 (1 : 220,000)



図7 平成31・令和元年度埋蔵文化財調査対象地位置（安岡・川中・勝山地区）（1：50,000）



図8 平成31・令和元年度埋蔵文化財調査対象地位置（勝山・長府地区）（1：50,000）

表 14 令和 2 年度の下関市内における埋蔵文化財調査実績一覧（1）

番号	調査番号	調査区分	調査対象遺跡	調査対象地	対象面積	原因者	担当者	調査期間	調査原因
1	2020014	確認調査	上げ安岡遺跡	安岡町七丁目 395 番 1 ほか	5,241.2㎡	株式会社月星建設	中原	2020.06.01 ~ 2020.06.30	宅地造成工事
	2020043	工事立会	上げ安岡遺跡	安岡町七丁目 395 番 1 ほか	5,241.2㎡	株式会社月星建設	中原	2020.11.24 ~ 2021.02.03	宅地造成工事
2	2020016	確認調査	長門国府跡・長門国分寺跡	長府紺屋町 1407	13,743.59㎡	株式会社プランハウス	藤原	2020.06.01 ~ 2020.08.24	宅地造成工事
	2020045	工事立会	長門国府跡・長門国分寺跡	長府紺屋町 1407	13,743.59㎡	株式会社プランハウス	藤原	2020.11.26 ~ 2021.03.05	既存建物 11 棟解体工事
3	2020034	試掘調査	(未周知)官林山古墳近接地・安岡胡麻田遺跡近接地	富任町五丁目	182㎡	下関市都市整備部市街地開発課	中原松永	2020.10.20 ~ 2021.02.04	安岡地区複合施設整備事業
4	2020050	確認調査	秋根遺跡	秋根南町二丁目 1 番 15	895.72㎡	緑都開発株式会社	藤原	2021.01.12 ~ 2021.02.05	賃貸共同住宅の建設工事
5	2020007	報告書	有富中尾遺跡	大字有富字中尾 236 ほか	1,164.66㎡	株式会社ヴィルセイ	阿南	2020.04.17 ~ 2021.03.31	宅地造成工事
6	2020008	報告書	有富中尾遺跡	大字有富字中尾 238-3、4	392.38㎡	個人	阿南	2020.04.10 ~ 2021.03.31	農地造成工事
7	2020009	立会調査	(未周知)有富中尾遺跡近接地	大字有富字中尾	-	株式会社ヴィルセイ	阿南	2020.04.06	宅地造成工事
8	2020010	立会調査	上ノ山遺跡及び古殿遺跡近接地	豊北町大字神田上字下田下地内	施工延長 14.0 m	豊北教育支所長(豊北総合支所建設農林水産課)	中原	2020.04.28 ~ 2020.04.30	農地災害復旧工事
9	2020011	立会調査	(未周知)小月競馬場跡	小月小島一丁目	205.898㎡	-	中原	2020.04.17 ~ 2020.06.30	東新田雨水 1 号幹線布設工事(第 1 工区)
10	2020012	立会調査	(未周知)朝倉(右田・陶)弘詮居館跡	豊田町大字榎原字諏訪ヶ原	21,488.987㎡	株式会社ウエストエネルギーソリューション	藤原	2020.04.10	太陽光発電施設建設工事
11	2020013	工事立会	延行条里遺跡	大字延行 287-1	718.71㎡	株式会社空間	藤原	2020.04.24	宅地造成工事
12	2020015	確認調査	未光遺跡	清末西町一丁目 2452 ほか	1,700㎡	有限会社高松コーポレーション	中原	2020.06.15 ~ 2020.06.16	宅地造成工事
13	2020017	工事立会	大河浜遺跡	豊北町大字神田字小嶋 3777-3	1.76㎡	楽天モバイル株式会社	藤本	2020.06.16	携帯電話無線基地局新設工事
14	2020018	工事立会	延行条里遺跡	大字延行字西島 287 番 4 の一部	270.99㎡	個人	中原藤本	2020.06.30 ~ 2020.09.04	住宅建築工事
15	2020019	その他	観音遺跡	小月本町一丁目 495-1	-	-	中原	2020.06.30	墓地造営文化財調査
16	2020020	工事立会	川棚条里跡	豊浦町大字川棚	100㎡	豊浦教育支所長(下関北部建設事務所)	松永	2020.07.29 ~ 2020.08.19	道路改良工事
17	2020021	立会調査	(未周知)侍町遺跡近接地・松原遺跡近接地	長府侍町一丁目	-	-	松永	2020.08.03 ~ 2020.08.05	電気工事(地中電線引き込み工事)
18	2020023	その他	(市指定天然記念物 館ヶ浴の権)	豊田町大字殿敷字広島 692 番地	-	-	中原	2020.09.08	指定文化財滅失・棄損
19	2020024	立会調査	(未周知)串崎遺跡隣接地	長府宮崎町 2914-1	-	-	中原	2020.09.11	事業所建設工事
20	2020025	工事立会	法寂寺古墳群・法寂寺遺跡	大字延行字法寂寺 10113-5	462.83㎡	株式会社 NAGATA	藤原	2020.09.14	自動車修理工場新築工事
21	2020026	工事立会	武久川下流域条里遺跡	生野町一丁目 96 番 3	2,233.28㎡	株式会社海王	藤原	2020.09.14 ~ 2020.09.15	宅地造成工事
22	2020027	工事立会	金子遺跡	大字勝谷字金子 803-14、808-21、808-30	168.85㎡	個人	中原	2020.09.10	住宅建築工事
23	2020028	工事立会	川棚条里跡	豊浦町大字川棚	170㎡	豊浦教育支所長(下関北部建設事務所)	中原	2020.09.14 ~ 2020.09.29	災害復旧(コンクリートブロック積)
24	2020029	立会調査	史跡功山寺旧境内地	長府川端一丁目	-	-	中原	2020.10.01	市史跡現状変更
25	2020030	立会調査	(未周知)赤頭遺跡近接地	大字田倉 215-1	-	山口県教育庁社会教育・文化財課埋蔵文化財班	藤原	2020.10.01	病院建設に伴う下水道工事
26	2020031	工事立会	未光遺跡	清末西町一丁目 2452 ほか	1,700㎡	有限会社高松コーポレーション	中原	2020.10.07	宅地造成工事
27	2020032	工事立会	幡生遺跡	幡生本町 49 番 1 ほか	約 0.1㎡	株式会社ジャパン特殊	中原藤原	2020.10.07	宅地造成工事
28	2020033	工事立会	下有富遺跡	大字有富字殿屋敷 269 番 1	255.33㎡	個人	藤原	2020.10.01 ~ 2020.11.27	住宅建築工事
29	2020035	工事立会	延行条里遺跡	形山みどり町 182 ほか	2,956.35㎡	株式会社レジデンス	藤原	2020.10.20 ~ 2020.11.24	宅地造成工事

表 15 令和 2 年度の下関市内における埋蔵文化財調査実績一覧（2）

番号	調査番号	調査区分	調査対象遺跡	調査対象地	対象面積	原因者	担当者	調査期間	調査原因
30	2020036	工事立会	住吉神社遺跡	一の宮本町二丁目 1575-11	204.02㎡	個人	中原	2020.10.23	住宅新築工事
31	2020037	工事立会	高山古屋遺跡	綾羅木本町三丁目 824-1	約 150㎡	個人	藤原	2020.10.23	住宅新築工事
32	2020038	工事立会	川棚条里跡	豊浦町大字川棚	110㎡	豊浦教育支所長 (下関北部建設事務所)	藤原	2020.10.29	災害復旧 (コンクリートブロック積)
33	2020039	工事立会	延行条里遺跡	大字有富字餅田 18 番 8	234.14㎡	個人	藤原	2020.11.09	住宅新築工事
34	2020040	工事立会	長門国府跡	長府川端二丁目 2132-3、 2131-5	88.43㎡	個人	藤原	2020.11.12 ~ 2020.11.13	既存建物解体工事
35	2020041	工事立会	梶栗浜遺跡	梶栗町四丁目 813-1	176.19㎡	個人	藤原	2020.11.12	住宅建替工事
36	2020042	その他	(推定) 長門国分寺跡	長府紺屋町 2 番 付近 (旧大洋漁業部長社宅推定地)	-	個人	阿南	-	遺物発見
37	2020044	工事立会	配原遺跡	員光町四丁目 2010-16	207.05㎡	個人	藤原 阿南	2020.11.26 ~ 2021.01.13	住宅新築工事
38	2020046	工事立会	川棚条里跡	豊浦町大字川棚	90㎡	豊浦教育支所長 (下関北部建設事務所)	藤原	2020.12.11	護岸工事
39	2020047	工事立会	坂ノ上遺跡	菊川町大字上岡枝字姪子屋 887 番 11	230.96㎡	個人	藤原	2020.12.17 ~ 2020.12.18	住宅新築工事
40	2020048	工事立会	吉永遺跡	豊浦町大字吉永 1036-5	53.02㎡	豊浦教育支所長 (下関市消防局警防課)	藤原	2020.12.18	消防機庫解体
41	2020049	立会調査	(未周知) 富任八幡宮遺跡近 接地	富任町八丁目 155 番 1 の一部	193.45㎡	大和ハウス工業株式会社	藤原	2020.12.16	住宅新築工事
42	2020051	工事立会	延行条里遺跡・延行郷遺跡	大字延行字西島 284 番 3、 大字延行字宮の脇山 42 番	784.42㎡	個人	藤原	2020.12.25 ~ 2021.11.04	宅地造成工事・住宅新築工事
43	2020052	その他	(貝光地区)	大字貝光 737 付近	-	個人	中原	2020.10.15	植林
44	2020053	その他	(本行寺)	赤間町 3 番 12	-	-	中原	2020.12.11	庫裏建替工事
45	2020054	その他	宮崎遺跡 (申崎城曲輪内)	長府宮崎町 6 番 8 渡辺アパートほか	-	-	中原	2020.12.15	-
46	2020055	その他	(未周知) 吉田貞恒城跡	大字吉田	-	元吉田観光協会副会長	中原	2020.12.16	-
47	2021001	立会調査	(未周知) 蒲生野郷遺跡近接 地	大字蒲生野字中村 686 番 1 ほか	1,205.28㎡	株式会社大翔産業	中原 藤原	2021.01.12	大翔産業大字蒲生野開発
48	2021002	工事立会	吉田地方畑遺跡	木屋川南町四丁目	52㎡	下関市上下水道局 下水道整備課	中原	2021.01.15	公共下水道敷設工事
49	2021003	立会調査	(未周知) 長門国府跡・侍町 遺跡近接地	長府侍町二丁目 2796-3、 2796-5	-	(長府製作所)	藤原	2021.01.21	土崩解体・駐車場造成工事
50	2021004	立会調査	(未周知) 末光遺跡近接地	清末西町一丁目 1785-1 ほか	1,759.2㎡	井上建設株式会社	藤原	2021.02.01	宅地造成工事
51	2021005	試掘調査	(未周知) 大字小野地区	大字小野字樋ノ口 917 番 3 ほか	約 30㎡	個人	中原	2021.02.12 ~ 2021.03.16	墓終い
52	2021006	工事立会	内日遺跡	大字内日下字堀ノ内 3126-2	420.84㎡	個人	藤原	2021.02.10	住宅新築工事
53	2021007	工事立会	内日遺跡	大字内日下字坂本 3125-14	283.56㎡	個人	阿南	2021.02.24	住宅新築工事
54	2021008	工事立会	上げ安岡遺跡	安岡町七丁目 282-2 番地ほか	3.65ha	下関安岡町七丁目 (仮称) 土地区画整理組 合	藤原 松永	2021.03.02 ~ 2021.04.19	下関安岡町七丁目 (仮称) 土地区画整理事業
55	2021009	工事立会	武久川下流域条里遺跡	生野町一丁目 121 番 1、 122 番 1	2,263㎡	個人	藤原	2021.03.01	既存工場解体工事
56	2021010	工事立会	川棚条里跡	豊浦町大字川棚	50㎡	豊浦教育支所長 (下関北部建設事務所)	松永	2021.03.04	江良川災害復旧工事
57	2021011	工事立会	内日遺跡	内日下 3125-4	320.60㎡	個人	阿南	2021.03.09	住宅新築工事
58	2021012	工事立会	金子遺跡	大字勝谷字金子 803 番 7、 807 番 2	177.20㎡	大和ハウス工業株式会社 山口支店	阿南	2021.03.08	住宅新築工事
59	2021013	確認調査	下有富遺跡	大字有富字殿屋敷 260、261 番地内	32㎡	株式会社安成工務店	中原	2021.03.22 ~ 2021.03.31	宅地造成工事
60	2021014	工事立会	永福遺跡	小月町 2147-1、2148-3	508㎡	株式会社 theHOUSE	阿南	2021.03.30	宅地造成工事

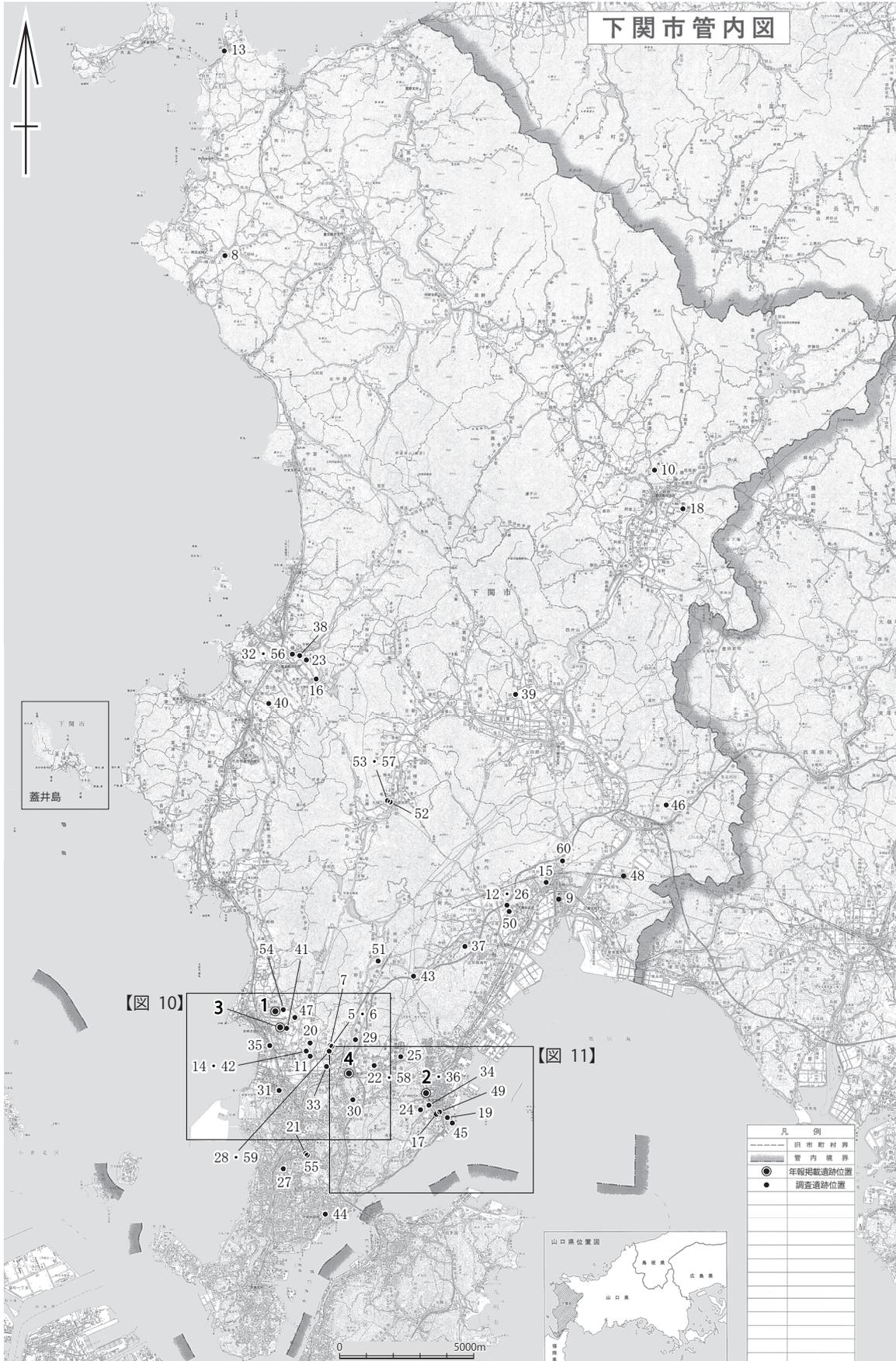


図 9 令和 2 年度埋蔵文化財調査対象地位置 (1 : 220,000)



図10 令和2年度埋蔵文化財調査対象地位位置（安岡・川中・勝山地区）（1：50,000）



図11 令和2年度埋蔵文化財調査対象地位位置（勝山・長府地区）（1：50,000）

## Ⅱ 平成 30 年度実施の主要調査概要

### 1 (未周知) 坂磯遺跡ほか近接地 KG

調査番号	2018020 ※表 10-1 記載
所在地	秋根上町一丁目、同二丁目、大字秋根、大字形山
調査種類	試掘調査
調査原因	土地区画整理事業
原因者	下関市新下関東土地区画整理組合設立準備会
調査後処置	調査終了後、現状復旧
調査面積	約 12ha
調査期間	平成 30 年 5 月 11 日～9 月 27 日
調査担当者	中山元智



図 II - 1 - 1 調査対象地の位置 (1 : 20,000)

**調査経緯** 周知の埋蔵文化財包蔵地「坂磯遺跡」とその近接地で、土地区画整理事業が計画されたため、埋蔵文化財の分布状況の把握を目的とする調査を実施した。

**位置と環境** 調査対象地は、青山（標高 288m）の南側に位置する丘陵地（標高 47m）で、丘陵地の南側には、坂磯遺跡と秀波古墳群が分布している。

**調査手法** 調査対象地の丘陵地は、平成 28 年度に実施した分布調査の成果を踏まえ、4 地区

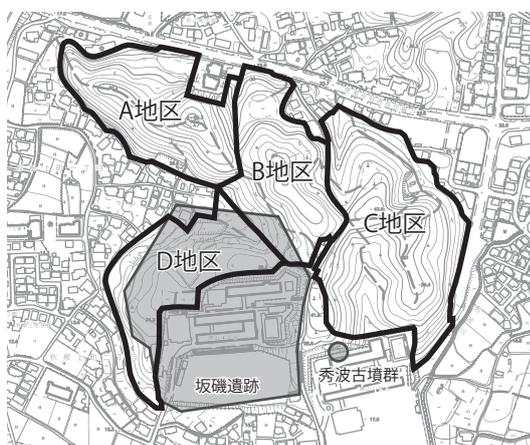


図 II - 1 - 2 調査地区の区分 (1 : 10,000)

に区分した。平成 29 年度に実施した調査では、A 地区・C 地区南部・D 地区東部を対象とし、各地区に試掘坑を設定し、地下遺構の分布状況を把握した。この度の調査では B 地区を対象とし、東西に延びる丘陵尾根を中心とした範囲に試掘坑を設定した。丘陵尾根の北側は急勾配の傾斜面となり、南側は部分的に平坦面となることから、丘陵尾根部に 6 ケ所、人為的な地形改変の可能性が高いと想定した尾根の南側に 7 ケ所の合計 13 ケ所に試掘坑を設定し、人力で掘り下げたうえで堆積状況の把握と遺構の分布を確認した。

**基本層序** 調査で確認した基本層序は、I 層からⅢ層に大別した。I 層は表土で、主にシルト質土で植物根を顕著に含む。試掘坑 7 と 8 では、旧表土と考えられる堆積状況を確認した。Ⅱ層は近世以降の造成土と考えられ、3 ケ所の試掘坑（試掘坑 3・7・8）で顕著に確認できた。Ⅲ層は明褐色から橙色の埴壤土と砂質土の基盤土で、花崗岩パイラン土と考えられる。

**調査成果** 調査の結果、6 ケ所の試掘坑（試掘坑 3・4・7・8・9・12）で遺構を確認した。主な遺構は、ピット状遺構、土坑、墓坑がある。また、調査で出土した主な遺物は土師器、古銭、近世陶磁器、人骨などがある。

調査で確認した遺構の内、試掘坑 4 で確認した墓坑 3 基について以下に詳述する。3 基の墓

坑（墓坑①～③）では、人骨が出土した。墓坑①は副葬品と考えられる土師器の皿と古銭（寛永通寶）が出土したことから、近世中期以降の時期と考えられる。墓坑②は遺物が出土しておらず、墓坑③では副葬品とみられる古銭が出土するなど、各墓坑で出土遺物に差異が確認できる。また、遺構の検出プランについても差異が確認でき、墓坑①と③は長方形、墓坑②は円形となる。人骨を取り上げる際は、専門的な知見を踏まえた適切な対応をするため、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの職員の協力を得た。各墓坑の被葬者については、墓坑①が成年の女性とみられ、墓坑②が成年男性、墓坑③が幼児（推定3歳程度）と考えられる。墓坑の位置関係から、被葬者は親族の可能性が高いと想定し、埋葬時期は墓坑①と大きく異なるものではないと想定している。

試掘坑7と8においても、墓坑とみられる遺構を確認した。地表で確認した礫などの類似点から試掘坑4で確認した近世墓などの可能性が想定できるものの、この度の調査では分布状況の把握としたため、遺構の詳細については今後の調査に期待したい。近世以降の造成土と考えているⅡ層は、3ヶ所の試掘坑（試掘坑3・7・8）で確認していることから、平坦面を確保する目的で墓域の形成に伴う造成の可能性が想定できる。

平成29年度の調査で対象としたA地区では、一石五輪塔や区画的な配置の礫を地表部で確認し、地下に墓坑が分布することを推察している。対象地のA地区とB地区における中世から近世の墓坑の変遷については、今後の大きな課題として考えられる。また、対象地内の地質的特徴は、一般的に人骨が残存する条件として適していないと考えられるものの、この度の調査の結果によって、対象地内に分布する墓坑では人骨が残存する可能性が高いと考えられる。

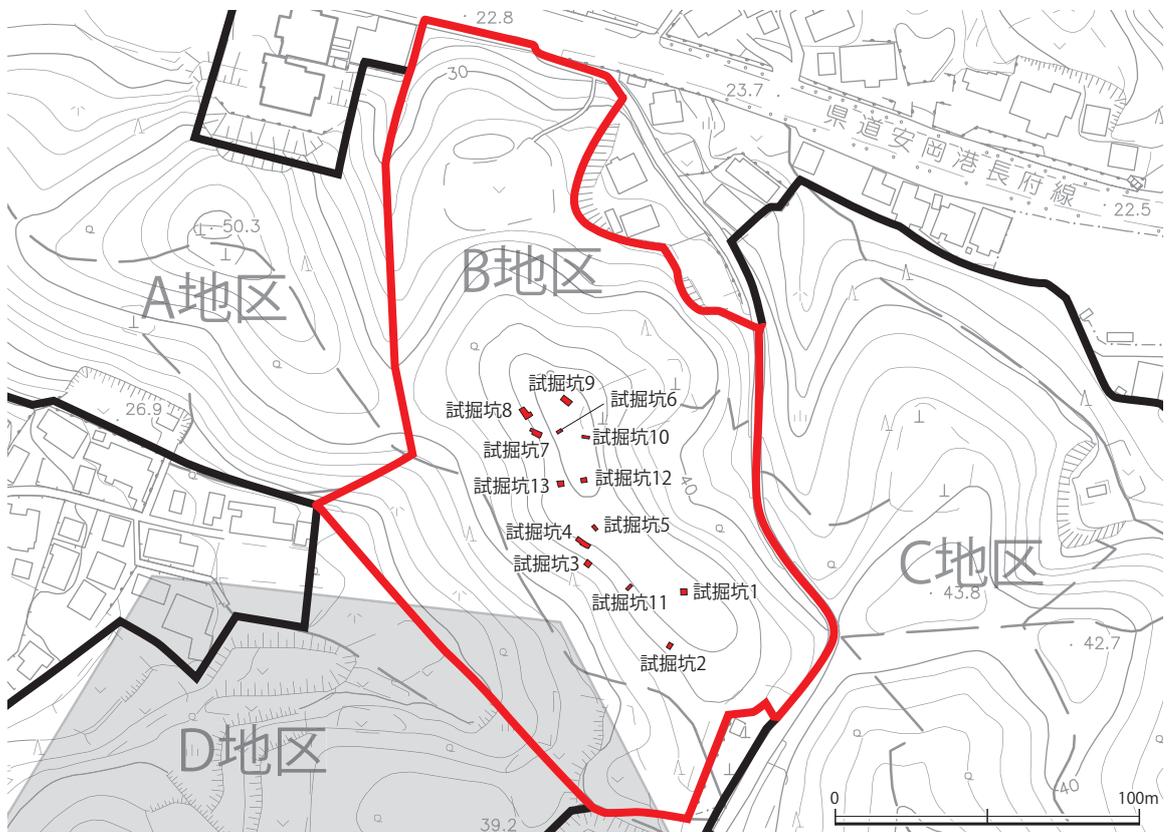


図 II - 1 - 3 試掘坑配置図 (1 : 2,500)



写真 II -1 -1 試掘坑4設定状況(南から)



写真 II -1 -2 試掘坑4掘り下げ状況(南から)



写真 II -1 -3 試掘坑4墓坑完掘状態(南から)



写真 II -1 -4 試掘坑4墓坑①人骨出土状況(南西から)



写真 II -1 -5 試掘坑4墓坑②人骨出土状況(南西から)



写真 II -1 -6 試掘坑4墓坑③人骨出土状況(南西から)



写真 II -1 -7 試掘坑7完掘状態(南東から)



写真 II -1 -8 試掘坑8完掘状態(南から)

## 2 延行条里遺跡（松ノ木地区） WAN

調査番号	2018034 ※表 10-2 記載
所在地	形山みどり町 189-2 ほか 地内
調査種類	確認調査
調査原因	宅地造成
原因者	株式会社レジデンス
調査後処置	調査終了後、工事立会（調査番号 2018045）
調査面積	2,954.81㎡
調査期間	平成 30 年 10 月 9 日～ 10 月 25 日
調査担当者	中山元智

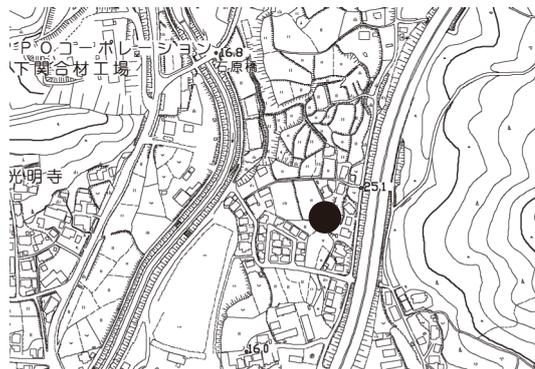


図 II -2 -1 調査対象地の位置（1：10,000）

**調査経緯** 周知の埋蔵文化財包蔵地「延行条里遺跡」内において、宅地造成工事が計画された。対象地は、周辺で実施した過去の調査成果から地下に遺構の分布が想定されたため、造成工事に先行した確認調査を実施し、地下遺構の分布状況を把握した。

**位置と環境** 調査対象地は、綾羅木川によって形成された平野部の東端、青山（標高 288m）の西南山麓の台地上（標高約 20～22m）に位置している。平野部一帯に分布する「延

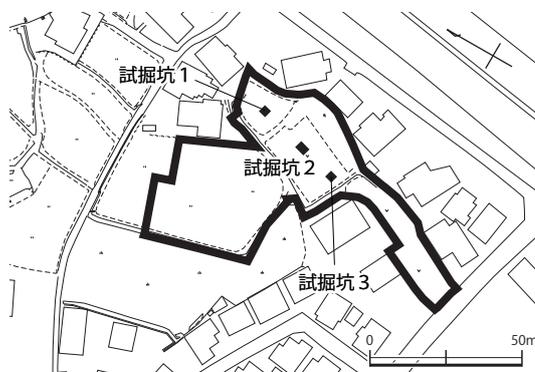


図 II -2 -2 試掘坑配置図（1：2,500）

行条里遺跡」は、古代以降の条里制に基づく地割が現在も部分的に残り、過去の調査によって縄文時代晩期以降から人々が周辺台地上に居住域を営んだことが明らかとなっている。調査対象地南東部の調査では、弥生時代から中世の集落跡に係る遺構や遺物、中世の遺物包含層が確認されていることから、この度の調査対象地においても同様の遺構分布が想定できた。

**調査の方法** 対象地は 3 つの平坦面が段々に分かれていたため、造成工事計画を勘案したうえで工事施工による削平範囲（高位面・中位面）を調査対象とした。地形の変化を踏まえ、高位面に試掘坑 1、中位面に試掘坑 2・3 を設定し、各試掘坑を掘り下げて地下遺構の分布状況を把握した。

**基本層序** 基本層序は、I 層～V 層に大別して考えられる。

I 層は現代の表土で、2 mm 程度の礫が少量混じるオリブ褐色からにぶい黄橙色のシルト質埴土となる。II 層から IV 層は、試掘坑 2・3 で確認した。II 層は a・b 層に細分し、厚く堆積した II a 層は明黄褐色軽埴土からシルト質土で黒色マンガンや白色粘質土がブロック状に混じり、薄く堆積した II b 層は重埴土となる。III 層は旧耕作土と考えられ、褐色土から黄褐色土のシルト質埴土、IV 層は出土遺物から近世以前の遺物包含層と考えられる。V 層はにぶい黄褐色の軽埴土から重埴土の基盤土となる。

**調査成果** 主な遺構として、試掘坑 2・3 の V 層（基盤土）上面で南北方向に延びる 2 条の溝状遺構を確認した。溝状遺構から遺物は出土していないため、遺構の時期については明らかでない。上

層(IV層)が近世以前に堆積したと考えられる点を踏まえ、溝状遺構の時期は中世頃と想定する。

この度の確認調査によって、対象地内では遅くとも近世頃に耕作地としての土地利用がなされ、その後の土地造成により現在の景観が形成されたと考えられる。

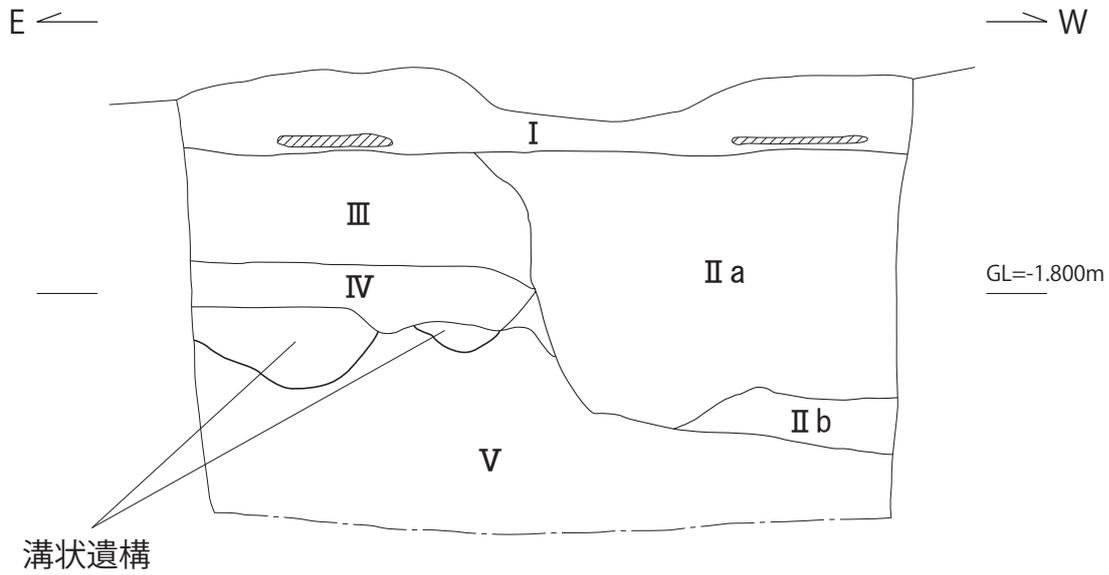


図 II -2 -3 試掘坑3 堆積層序模式図



写真 II -2 -1 試掘坑2 完掘状態 (南東から)



写真 II -2 -2 試掘坑3 遺構検出状況 (南東から)



写真 II -2 -3 試掘坑2 南壁堆積層序 (北から)



写真 II -2 -4 試掘坑3 南壁堆積層序 (北から)

### Ⅲ 平成 31・令和元年度実施の主要調査概要

#### 1 金子遺跡 KKK

調査番号	2019019 ※表 12-1 記載
所在地	大字勝谷字金子 804 ほか 地内
調査種類	確認調査
調査原因	宅地造成
原因者	株式会社下関ハウジング
調査後処置	調査終了後、工事立会 (調査番号 2019061)
調査面積	約 6,126㎡
調査期間	令和元年 5 月 13 日～5 月 31 日
調査担当者	阿南翔悟

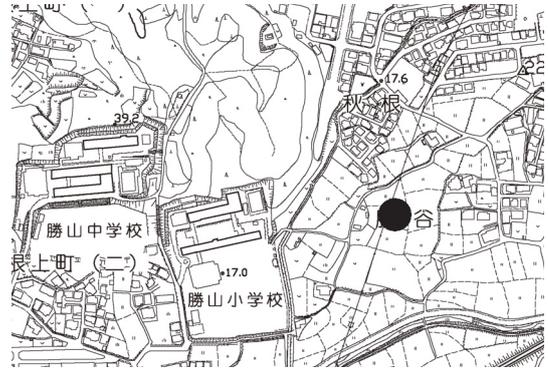


図 III -1 -1 調査対象地の位置 (1 : 10,000)

**調査経緯** 周知の埋蔵文化財包蔵地「金子遺跡」内とその隣接地で、宅地造成工事が計画された。対象地内は埋蔵文化財の分布が予想され、工事による影響を受ける可能性があった。そのため、工事に先立って事業計画にかかる埋蔵文化財の取り扱いを判断するための基礎資料を収集することを目的として、確認調査を実施した。



写真 III -1 -1 調査対象地遠景 (北東から)

**位置と環境** 調査対象地は下関市域南部を東西方向に流れる砂子多川北岸の南西―北東方向に延びる微高地 (河岸段丘) 上に位置する。砂子多川はたびたび氾濫することで知られ、河川による浸食の影響を受けやすい環境にある。金子遺跡では調査対象地西側の道路工事計画に伴い平成 23 年度～平成 25 年度にかけて試掘調査および本発掘調査が実施され、河川浸食に伴う激しい起伏とそれを覆う堆積層、及び堆積層上面で、井戸及び溝状遺構などの中世に属する遺構の分布が確認された。

**検出遺構** 主な遺構として、試掘坑 3 で中世の土坑墓 LG 001 を検出した。長さ 113cm、幅 82cm、深さ 26cm の楕円形を呈する。堆積に木棺の痕跡が確認でき、木棺の部材とみられる釘が出土したほか、棺外南側で土師器杯の副葬を確認した。

土坑墓以外には、試掘坑 5 で複数の Pit (性格不明の小規模土坑) の分布を確認した。

**出土遺物** 主な遺物として土坑墓 LG 001 出土遺物のほか、表土から土師質土器や陶磁器の細片などが出土した。

**調査成果** 過去の金子遺跡の発掘調査と類似した堆積状況が確認され、試掘坑 3 では土坑墓を検出した。金子遺跡の遺構分布範囲がより広域に広がることが確認できた。

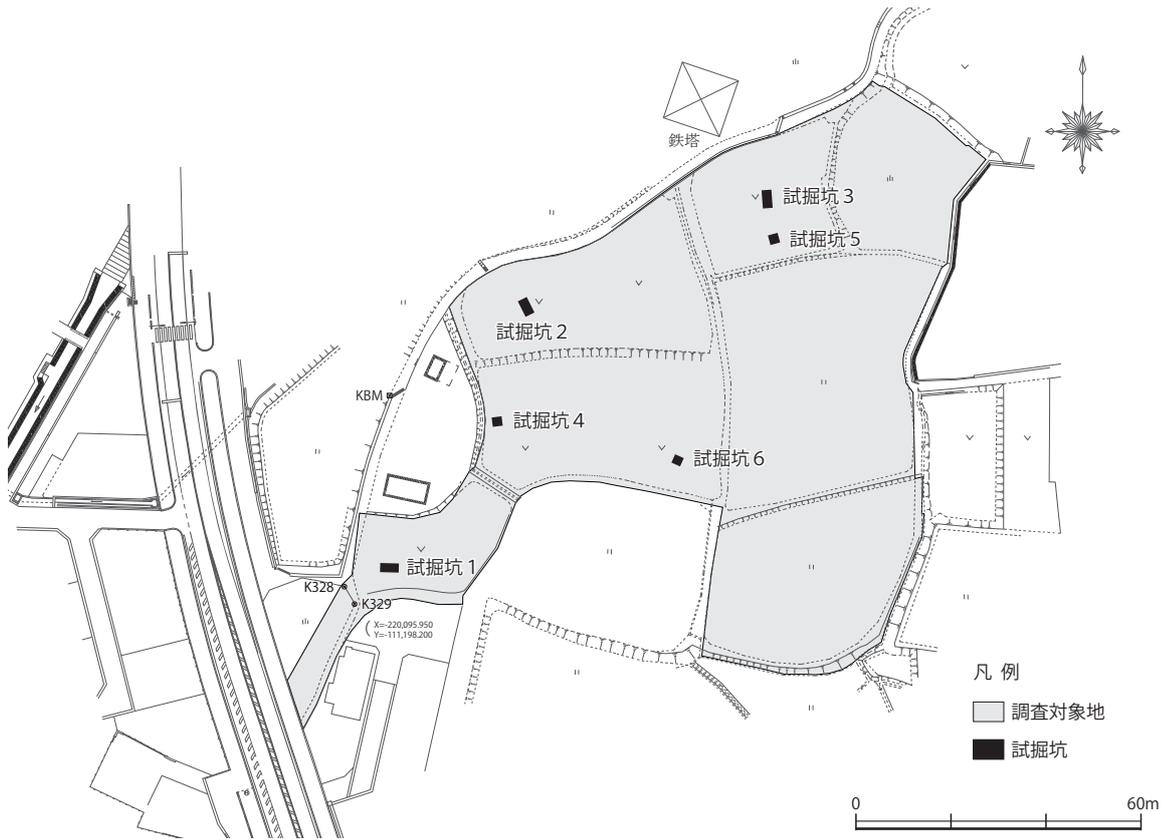


図 III - 1 - 2 試掘坑配置図 (1 : 1,600)

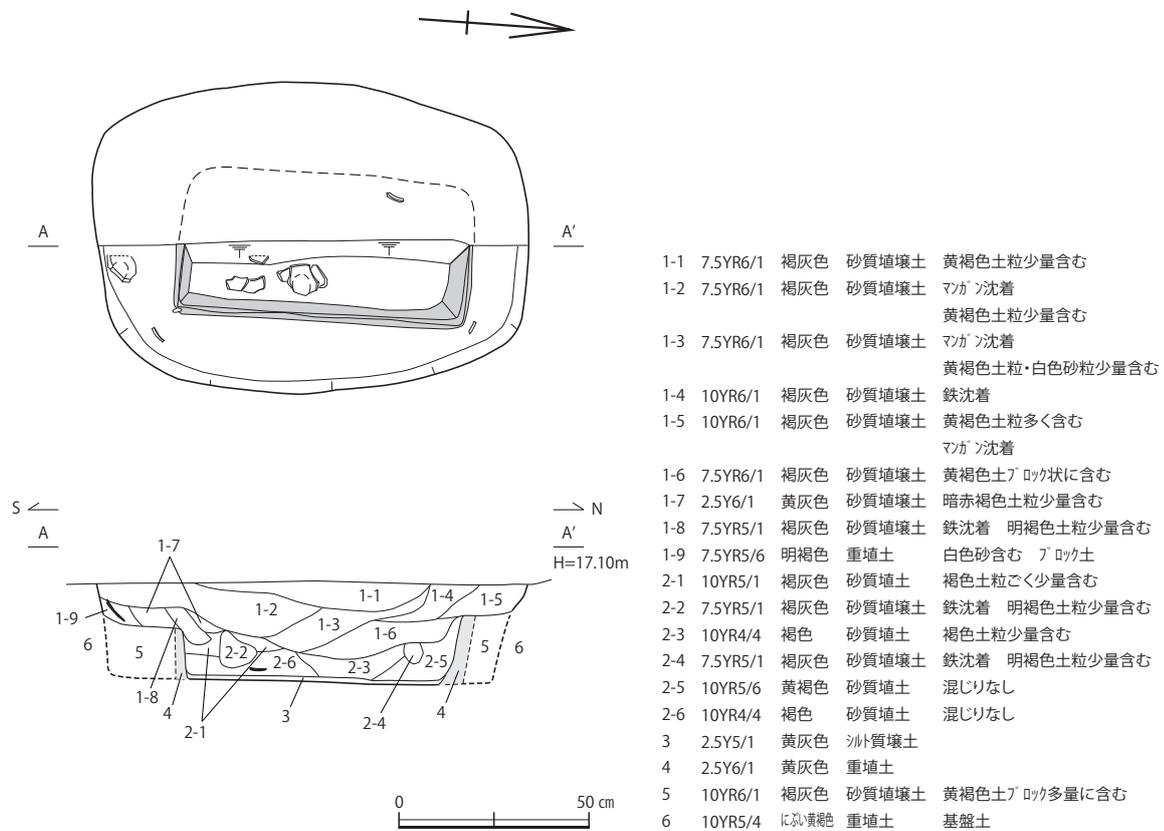


図 III - 1 - 3 試掘坑3 土坑墓 LG001 (1 : 20)

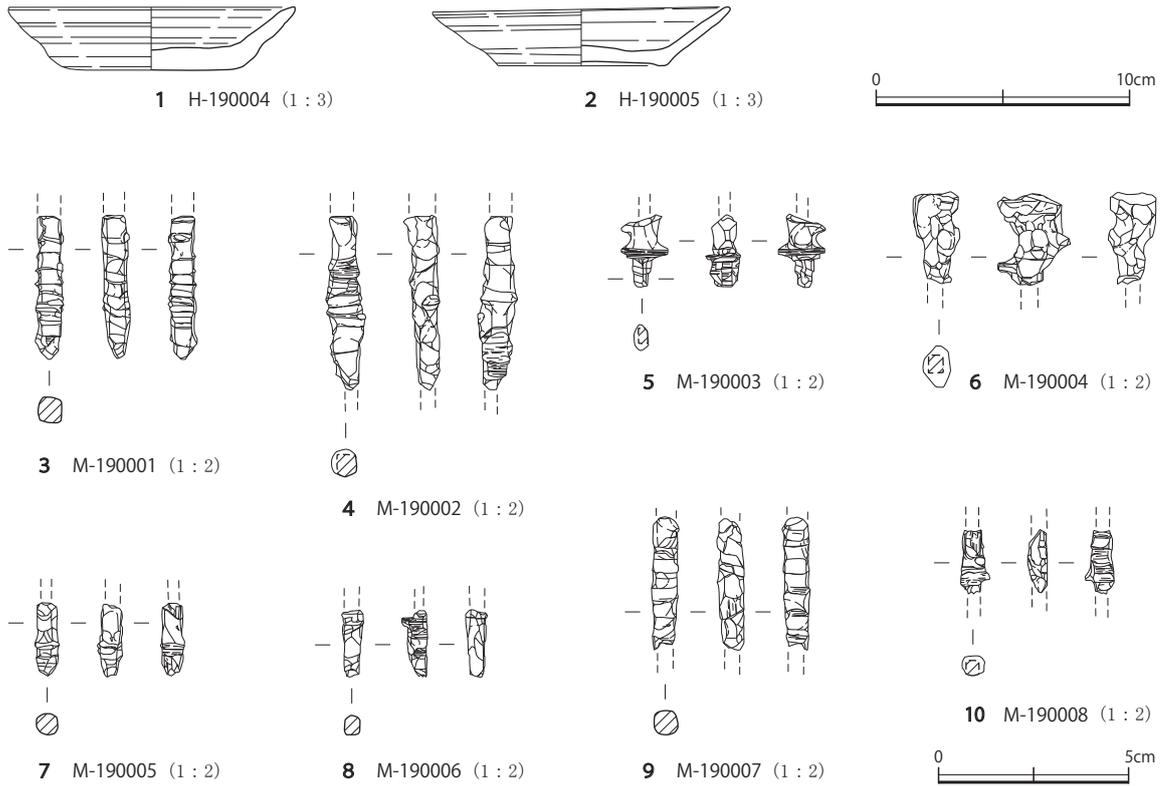


図 III -1 -4 出土遺物実測図 (1 : 3、1 : 2)



写真 III -1 -2 土坑墓 LG 001 木棺痕跡検出状況 (東から)



写真 III -1 -3 土坑墓 LG 001 遺物出土状況 (北から)



写真 III -1 -4 土坑墓 LG 001 出土土師器

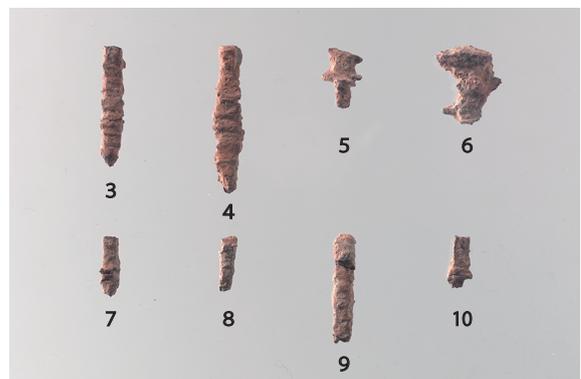


写真 III -1 -5 土坑墓 LG 001 出土鉄製品

## 2 (未周知) 下有富遺跡近接地・有富中尾遺跡 WAA

調査番号 試掘調査：2019020 ※表 12-2 記載

発掘調査（宅地造成）：2019048

発掘調査（農地造成）：2019059

所在地 大字有富字中尾 地内

調査種類 試掘調査・発掘調査

調査原因 農地造成・宅地造成

原因者 宅地造成：株式会社 ヴィルセイン

農地造成：個人

調査後処置 調査終了後、施工

調査面積 試掘調査：5,526.71㎡

発掘調査（宅地造成）：772.28㎡、発掘調査（農地造成）：392.38㎡

調査期間 試掘調査：令和元年6月3日～7月29日

発掘調査（宅地造成）：令和元年11月8日～令和2年3月19日

発掘調査（農地造成）：令和元年11月19日～令和2年3月19日

調査担当者 阿南翔悟



図 III -2 -1 調査対象地の位置（1：10,000）

調査経緯 周知の埋蔵文化財包蔵地である「下有富遺跡」の近接地で農地造成工事・宅地造成工事が計画された。これに伴い実施した試掘調査により遺構分布が確認され、調査終了後に「有富中尾遺跡」として、山口県遺跡台帳に新規登録された。その後、事業計画に係る「有富中尾遺跡」の取り扱いについて調整を経て、宅地造成および農地造成に伴う発掘調査を実施することとなった。



写真 III -2 -1 調査対象地遠景（上が北）

位置と環境 有富中尾遺跡は市域南部の有富地区に位置する。川中平野の北東部から北側に位置する丘陵の東端部にあたり、農地造成および宅地造成に伴う発掘調査対象地（以下、対象地）は丘陵東端の、周囲より一段高い、標高約 23m の尾根筋状に延びる高まりの東斜面に位置する。周囲は小規模な起伏が複雑に入り組んでおり、東は狭隘かつ深い谷が北へと延び、西は一段低く緩やかに傾斜する。

堆積状況 対象地の堆積は、北側から南西側（A～D-01・02、E～I-04・05グリッド）では表土直下で遺構分布が確認されたが、東側（E～I-02・03グリッド）では遺物を含む自然堆積層が分布する。また、表土直下で基盤土が検出された範囲については後世の土地改変による影響を強く受けたためか遺構密度が低く、残存状態も悪い。その一方で、自然堆積層が分布する範囲から

検出遺構 主な遺構として竪穴住居跡 14 基、土坑墓 54 基を検出した。前者は概ね弥生時代後期後葉～古墳時代前期前葉、後者は中世末～近世初頭に属する。

**竪穴住居跡** 竪穴住居跡の平面形態は方形か、隅丸方形を呈する。また、住居構造として柱穴は2～4基、壁沿いに溝、壁の一辺に土坑、中央に炉、西壁沿いにベッド状遺構、南西隅に土坑、床面中央に炉、内側へ傾斜する壁面などを検出した。

主な出土遺物として、弥生時代後期後葉～古墳時代前期前葉の土器類、砥石、台石などがある。器種は甕、壺、器台などがある。在地系の土器が多いが、山陰系の複合口縁壺や、畿内系の複合口縁壺、豊前系の受け部にU字形の袢りがある筒形器台など、外来系の土器も少数ではあるが認められる。

**土坑墓** 土坑墓は墓坑内から大型の礫や釘、金具が出土しており、木棺を収めた墓坑の上に墓標として礫を積み上げたものとみられる。

**調査成果** 今回の調査では、弥生時代後期後葉～古墳時代前期前葉の川中平野一帯に展開する集落域の分布と変遷の一端が明らかとなり、また中世後期以降は対象地一帯が墓域であることが確認された。周辺遺跡で確認されている集落域との関連が想定され、中世後期～近世の土地景観の復元に寄与する資料が得られた。



写真 III -2 -2 遺構分布状況（北から）

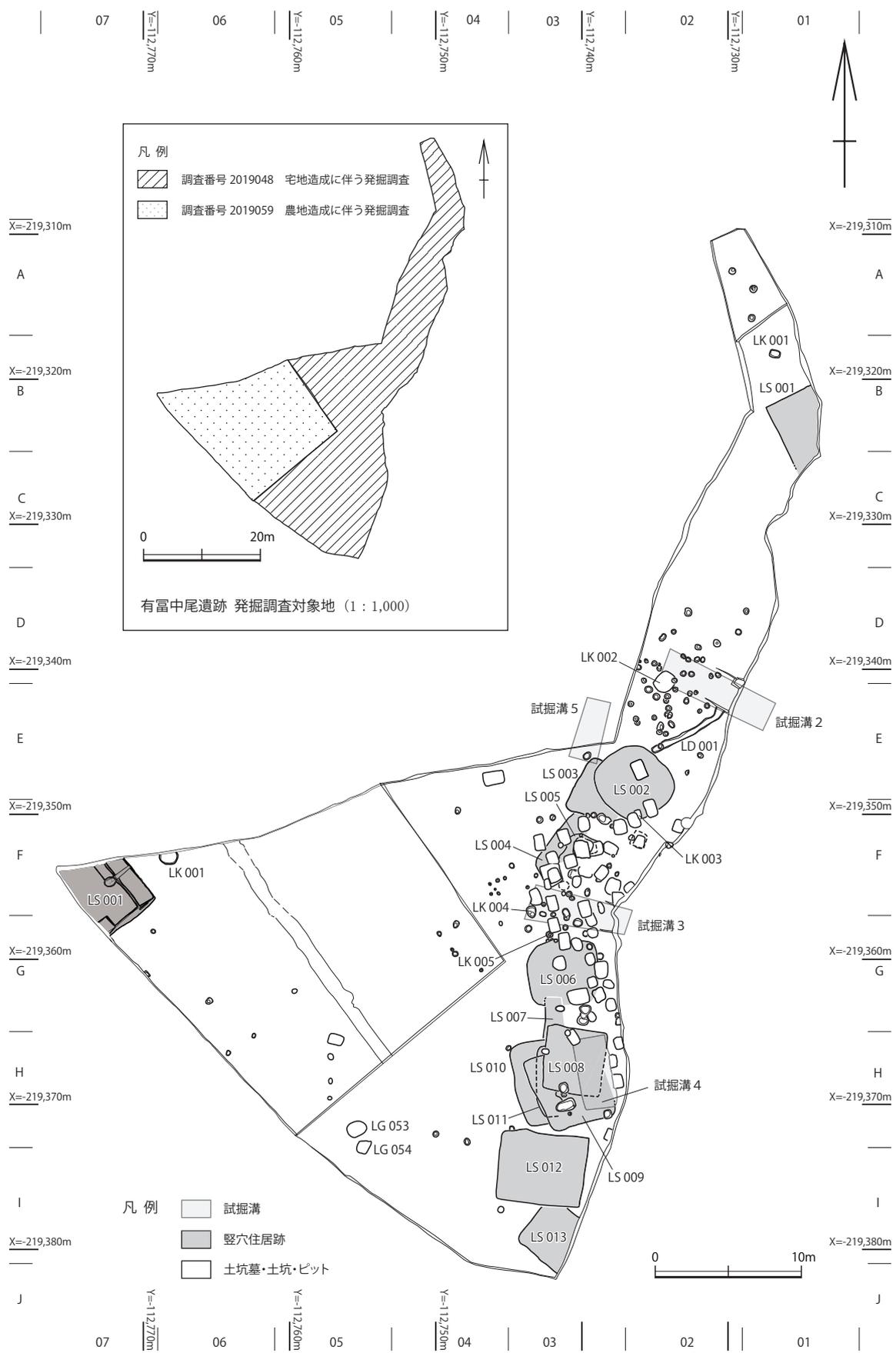


図 III -2 -2 遺構分布状況 (1 : 400)

### 3 長門国分寺跡 NKF

調査番号	2019024 ※表 12-3 記載
所在地	長府紺屋町 2-15、2-27
調査種類	確認調査
調査原因	既存建物の解体工事
原因者	株式会社マルハニチロアセット下関事務所
調査後処置	確認調査終了後、工事立会（調査番号 2019038）
調査面積	1,001.41㎡
調査期間	令和元年 5月 12日～7月 2日
調査担当者	中山元智

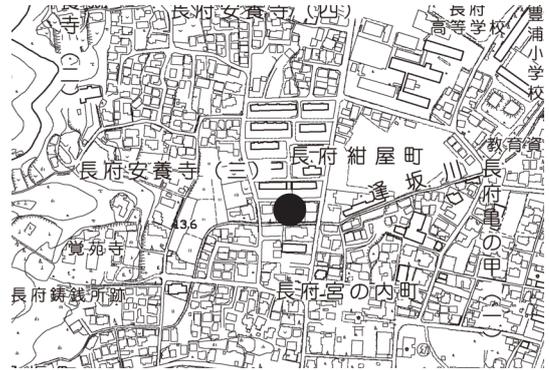


図 III -3 -1 調査対象地の位置（1：10,000）

**調査経緯** 周知の埋蔵文化財包蔵地「長門国分寺跡」において既存建物の解体工事が計画されたため、解体工事に先行して地下の遺構分布状況を把握するための調査を実施した。調査後は、既存建物の解体工事に際して工事立会を実施した。

**位置と環境** 長府地区は北を四王司山、西を准提峯、南を霊鷲山や大唐櫃山、串崎（雄山）の山塊に囲まれ、大唐櫃山から延びる尾根と字亀の甲の砂礫台地が南西から北東に向かって延びている。その台地の西北部に「長門国分寺跡」は位置している。

調査対象地の南側は、昭和 52 年度から昭和 56 年度に発掘調査が行われており、版築手法による伽藍の基壇築成などが確認されている。また、調査対象地北西部の下

安養寺地区では、昭和 56 年度に発掘調査が行われており、「長門国分寺跡」の寺域北限線とみられる東西方向の溝状遺構が確認されている。この溝状遺構は、平安時代中期頃に埋没し、平安時代後期から室町時代前期頃に再び溝として機能したと考えられており、この度の調査対象地に溝状遺構の連続部が分布する可能性が想定された。

**調査手法** 確認調査は、対象地内に 3ヶ所の試掘溝を設定した。既存建物の南側に 3×4 mの試掘溝を設定し（試掘溝 1・2）、両試掘溝の間に試掘溝 3を設定した。確認調査終了後は埋め戻しによる現状復旧を図った。その後、既存建物の解体工事に際しての工事立会は、既存建物の基礎部分と浄化槽部分を対象範囲とし、重機で基礎および浄化槽を除去したうえで、地下遺構の状況を確認した。

**基本層序** 調査対象地の基本層序は、I～XI層に大別した。I層は現代の表土層で、II層は現代の宅地

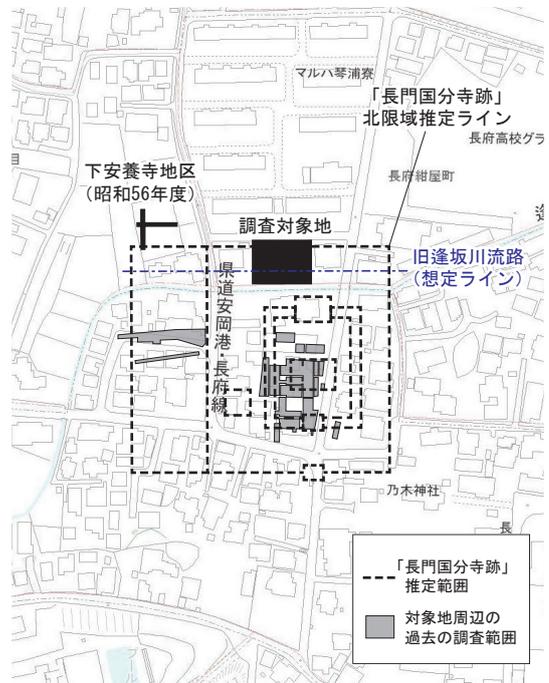


図 III -3 -2 長門国分寺推定範囲と周辺調査履歴

造成層、Ⅲ層は近代以降の旧表土（耕作土）と考えられる。Ⅳ層は近世以前の造成層で、上面に溝状遺構や土坑などの遺構を確認した。Ⅴ層からⅨ層は、国分寺川（逢坂川）の旧河道に係る堆積と考えられ、Ⅴ層は灰褐色から黒色のシルト質壤土で木質などが混じる腐植質の土層、Ⅵ層はにぶい褐色砂土で細砂と粗砂が互層状に堆積する。Ⅶ層は0.5～1cm程度の礫が混じるにぶい褐色砂土で、Ⅷ層は自然木（枝、種子など）を多量に含む黒色シルト質壤土、Ⅸ層は褐灰色砂土を主とする。調査対象地の基盤土は、試掘溝1で確認したⅩ層（青灰色重埴土）、試掘溝2・3で確認したⅪ層となる。Ⅺ層は、さらにa層（明褐灰色～灰白色砂土）とb層（明褐灰色軽埴土）に細分した。

**調査成果**

確認調査の結果、試掘溝1の基盤土（Ⅹ層）は低地性の堆積で、試掘溝2・3とは異なる状況を確認した。また、工事立会時の基礎②除去地点において、試掘溝2と同様の基盤土を確認したことから、基盤土（Ⅺ層）は試掘溝2から北東方向へ面的に広がると考えられ、調査対象地の東半部では、部分的に亀の甲台地縁辺部にあたる旧地形と想定した。

旧地形の台地縁辺部から西へ向かって谷状地形が続いていくと想定し、その谷筋に国分寺川（逢坂川）の旧河道が存在したとみられる。試掘溝2で確認した局所的な堆積（Ⅷ層）は、水流が一定期間停滞した状況を示唆するとみられ、工事立会時の浄化槽除去地点の地表下1.1mから1.7mで同様の堆積が確認でき、旧河道の流路方向は南西から北東方向と想定できる。

浄化槽除去地点の北壁では、木質層（Ⅷ層）付近で木製品片、上層に厚く堆積した暗灰黄色砂土で回転糸切り痕跡がある土師器の坏、布目瓦などの平安時代後期以降の遺物が出土したことから、旧河道の埋没時期は平安時代後期以降と想定できる。仮に旧河道の埋没時期を平安時代後期以降と想定した場合は、昭和56年度の下安養寺地区の調査で確認された溝状遺構の埋め戻し後に再び機能した時期（平安時代後期から室町時代前期）と重複する可能性があることから、旧河道の埋没過程や時期については、今後の検討が必要な課題と考えられる。

旧河道埋没後は平坦面が形成されたとみられ、近代以降に耕作地としての土地利用を経て、昭和40年（1965年）から昭和45年（1970年）頃に現在の宅地造成が行われた結果、現在の景観へと繋がったと考えられる。

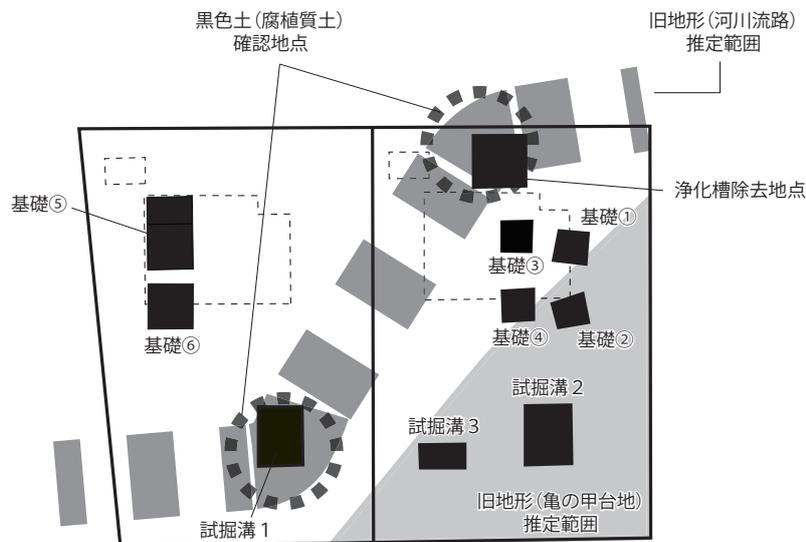


図 III - 3 - 3 確認調査および工事立会の調査区と旧地形想定図（縮尺任意）



写真 III -3 - 1 試掘溝1 完掘状態 (南東から)



写真 III -3 - 2 試掘溝1 東壁堆積状況 (西から)



写真 III -3 - 3 試掘溝2 完掘状態 (南東から)



写真 III -3 - 4 試掘溝2 東壁層序 (西から)



写真 III -3 - 5 試掘溝3 完掘状態 (南東から)



写真 III -3 - 6 試掘溝3 南側堆積状況 (北から)



写真 III -3 - 7 基礎②除去地点 確認状況 (北から)



写真 III -3 - 8 浄化槽除去地点 北壁堆積層序 (南から)

## 4 (未周知) 田畑遺跡近接地 IT

調査番号 2019034 ※表 12-4 記載  
所在地 清末西町二丁目 1804  
調査種類 試掘調査  
調査原因 集合住宅新築  
原因者 個人  
調査後処置 調査終了後、原状復旧  
調査面積 16 m<sup>2</sup>  
調査期間 令和元年 7 月 23 日～7 月 30 日  
調査担当者 藤原彰久

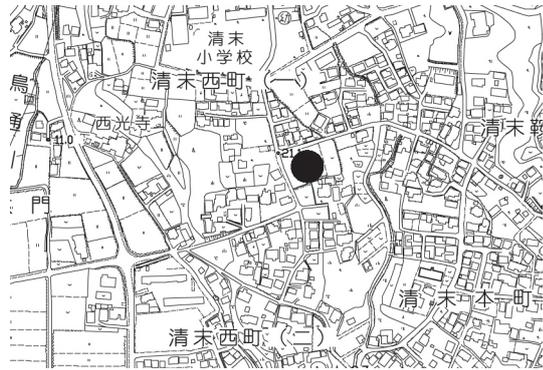


図 III-4-1 調査対象地の位置 (1 : 10,000)

調査経緯 田畑遺跡近接地における集合住宅新築工事計画に伴い、試掘調査を実施した。

位置と環境 対象地は六万坊山山地南東部から南へ伸びる砂礫台地上に位置する。砂礫台地の西側には神田川が南流し、神田川が形成する沖積低地が広がる。また対象地の東側には南北方向の小規模な谷状地形が開析し、対象地は台地部と谷部の地形変換点付近に位置する。同一台地上には、田畑遺跡のほか、末光遺跡、木下遺跡など中世から近世にかけての遺跡が分布する。対象地は田畑遺跡の東側約 50 m に位置し、田畑遺跡と関連する遺構や遺物の分布が想定された。対象地の調査前現況は畑（ビニルハウス）および田で、東側の谷地形に向かって段造成がなされている。



写真 III-4-1 調査対象地近景 (北東から)



写真 III-4-2 試掘坑 1 完掘状況 (南から)

調査結果 対象地内に試掘坑 3 か所を設定して調査した結果、対象地は現在の耕作地の造成に伴い、大規模に基盤土が削平された状況を確認した。対象地南西部に位置する試掘坑 2 では、田畑遺跡の遺構面基盤土と同様の風化基盤土 (IV 層) を検出したが、試掘坑 1 および 3 では、風化基盤土が削失し、クサリ礫層が露出した状況を確認した。試掘坑 1 では、表土直下に基盤土由来の近代以降の造成土 (II 層) が堆積し、その下層で灰黄色粘土 (III 層) およびクサリ礫層 (IV 層) の堆積を確認した。なお、灰黄色粘土はクサリ礫層を掘り込んだような堆積状況が見られるため、遺構の埋土の可能性はある。掘削の範囲内では白磁の可能性のある磁器片 1 点を除いて、中世以前の遺構・遺物の分布は確認できなかった。周辺の調査成果からは、清末地区周辺の台地部は近代以降の土地造成が顕著で、台地上の高位部分は削平により基盤土が削失した状況が窺え、台地縁辺の傾斜面において中世から近世の遺構分布が確認されている。田畑遺跡についても田畑遺跡の分布範囲を中心とした西側の台地周縁部に遺構が残存するものと想定される。

## 5 (未周知) 松原遺跡近接地・侍町遺跡 CSM

調査番号	2019045・2019060 ※表 12-5 記載
所在地	長府侍町二丁目 2794-4、2796-17
調査種類	立会調査、工事立会
調査原因	集合住宅の建設
原因者	エムティネクスト株式会社
調査後処置	調査終了後、工事施工
調査面積	1,243.80㎡
調査期間	令和元年 9 月 2 日～ 12 月 25 日
調査担当者	中山元智

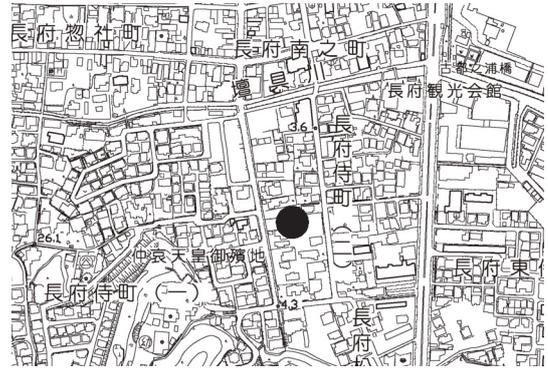


図 III -5 -1 調査対象地の位置 (1 : 10,000)

**調査経緯** 周知の埋蔵文化財包蔵地「松原遺跡」の近接地で集合住宅建設工事が計画されたため、既存建物解体時に地下遺構の分布状況を把握するための立会調査を実施した。立会調査の結果、近世の造成層と中世と近世の遺構分布を確認し、「侍町遺跡」として山口県の遺跡台帳に登録された。

その後、集合住宅建設工事の施工に際して工事立会を実施した。

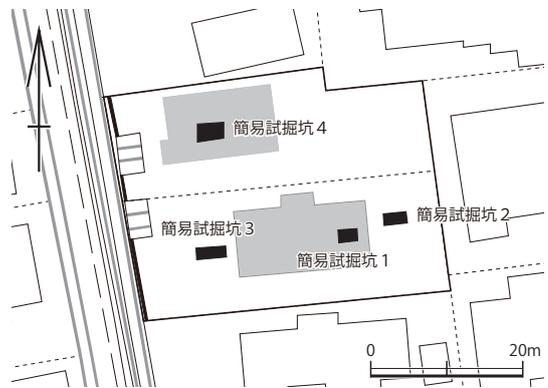


図 III -5 -2 立会調査 簡易試掘坑の配置図 (1 : 1,000)

**位置と環境** 調査対象地は「松原遺跡」から北に約 40 m に位置し、宝暦年間 (1751 年～ 1763 年頃) の長府地域の屋敷割を示した長府図では、武家屋敷の一部に該当する場所と考えられる。また、同図では対象地から東に約 150 m 進んだ場所は海として表現され、その海岸線は古代から中世の自然気象条件により、北北東方向に伸びる長い海岸浜堤 (砂堆) として発達したと考えられている。この砂堆は、近接する「松原遺跡」や「長門国府跡」でこれまでに行われた発掘調査でも確認されている。

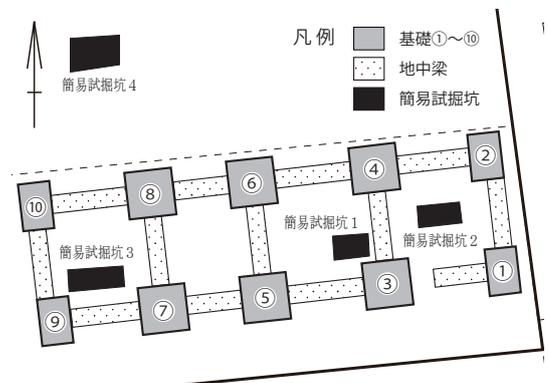


図 III -5 -3 工事立会 調査対象範囲

**調査手法** 立会調査は、既存建物解体工事の際に簡易試掘坑を 4 ヶ所設定し、地下遺構の有無ならびに堆積状況を確認した。立会調査成果を踏まえ、集合住宅建設工事による遺構削失範囲 (建物基礎部分・地中梁部分) を対象とした工事立会を実施した。工事立会は、調査範囲を地表下約 1 m まで重機で掘削し、壁面および平面の遺構検出作業ならびに記録作業を実施した。

**基本層序** 対象地の基本層序は、立会調査ならびに工事立会の調査成果から I 層から VII 層に大別して考えることができる。I 層は表土および現代の宅地造成土で、場所によって顕著な攪乱を受けた

状況も確認された。Ⅱ層は旧表土とみられる。Ⅲ層からⅤ層は近世の造成土で、各層の上面で土坑を中心とした遺構が分布することを確認し、近世の屋敷地としての土地利用に際しての土地造成があったと推察できる。Ⅵ層は中世の堆積層で、上面に遺構が分布する。Ⅶ層は自然堆積土と考えられる砂土となる。

**調査成果** この度の調査の結果、Ⅲ層からⅥ層の上面で柱穴や土坑などの中世から近世の遺構を確認した。出土遺物は、土師器の坏、瓦質土器の播鉢や足鍋、陶磁器や瓦、土錘などの中世から近世の時期を主体とする。遺構や出土遺物などは、近接する松原遺跡の調査時に確認された状況と類似している。ただし、松原遺跡で出土したスラグや長門国府跡（侍町地区・南之町地区）で確認した16世紀代の炉跡などの鍛冶・冶金と関連する遺構や遺物は確認しておらず、今後の周辺調査の情報を蓄積したうえでの検討が必要となる。

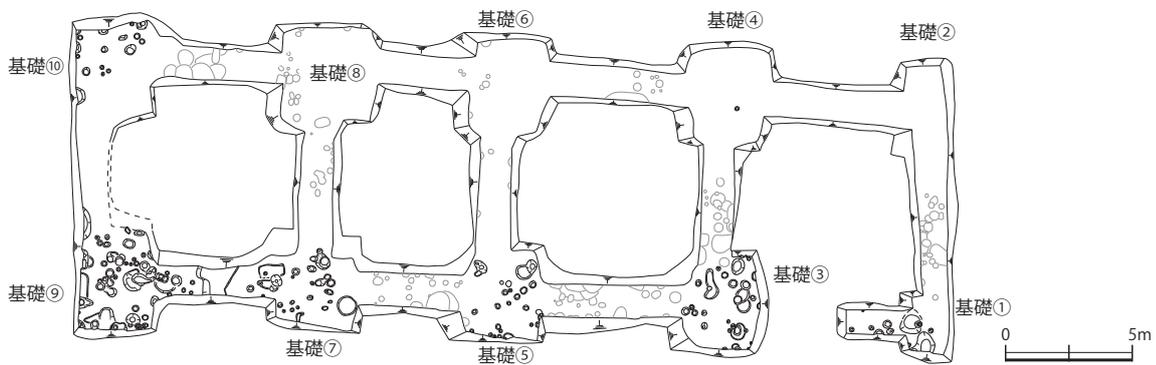


図 III - 5 - 4 工事立会 遺構分布状況（1 : 300）



写真 III - 5 - 1 工事立会着手前の対象地（西から）



写真 III - 5 - 2 基礎⑩遺構完掘状態（北東から）



写真 III - 5 - 3 対象地南部遺構完掘状態（西から）



写真 III - 5 - 4 基礎⑨遺構完掘状態（北西から）

## IV 令和2年度実施の主要調査概要

### 1 上げ安岡遺跡 SAS

調査番号	2020014 ※表 14-1 記載
所在地	安岡町七丁目 395 番 1 ほか
調査種類	確認調査
調査原因	宅地造成
原因者	株式会社月星建設
調査後処置	調査終了後、工事立会
調査面積	5,241.2㎡
調査期間	令和2年6月1日～6月30日
調査担当者	中原周一

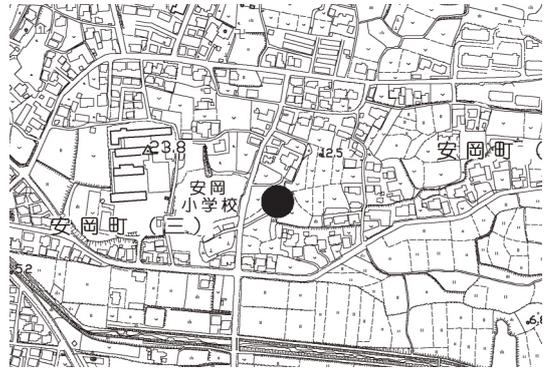


図 IV-1-1 調査対象地の位置 (1:10,000)

調査経緯	周知の埋蔵文化財包蔵地「上げ安岡遺跡」の範囲内で、宅地造成工事が計画された。
位置と環境	対象地は友田川に面する洪積台地に立地する上げ安岡遺跡の西端に位置する。上げ安岡遺跡は過去に弥生時代から中世までの集落遺構が見つかっており、今回の調査でも同様の状況が予測された。
堆積状況	基本層序については次のとおり。 第Ⅰ層—現代の畑耕作土～試掘坑A～D 第Ⅱ層—現代の畑造成土～試掘坑A～D 第Ⅲ層—近世の田畑造成土～試掘坑A・D 第Ⅳ層—中世の整地層（遺物包含層）～試掘坑A 第Ⅴ層—基盤（地山）～試掘坑A～D（試掘坑Cでは中世遺構検出）



写真 IV-1-1 調査対象地遠景（北東から）

堆積状況	基本層序については次のとおり。 第Ⅰ層—現代の畑耕作土～試掘坑A～D 第Ⅱ層—現代の畑造成土～試掘坑A～D 第Ⅲ層—近世の田畑造成土～試掘坑A・D 第Ⅳ層—中世の整地層（遺物包含層）～試掘坑A 第Ⅴ層—基盤（地山）～試掘坑A～D（試掘坑Cでは中世遺構検出） 遺構と遺物については次のとおり。
検出遺構	遺構—近代の暗渠（試掘坑A）、中世の柱穴・土坑（試掘坑C）
出土遺物	遺物—近代の瓦（試掘坑A）、近世陶磁器（各調査区）、中世土師器・陶磁器・石製品・土製品、古代？須恵器、弥生土器（各調査区）ほか
調査成果	調査の結果、中世の遺構が僅かながら残存することが判明した。対象地は調査実施の直前まで畑地として利用されていたが、この形態は近世～近代以降から続くもので、試掘坑Aの近代の暗渠は、その当時の土地利用状況を示すものである。この近世～近代の田畑開発が現土地景観に大きく影響するもので、既存の中世遺構もこの時に削られた可能性が高い。各地区の埋積土第Ⅰ・Ⅱ層から出土する一定数の中世遺物は中世遺構を削平した際のもと考えられる。その他、弥生土器や古代の須恵器が出土するが数も少なく、遺構も認められなかった。中世以前の土地利用は希薄であり、加えて中世遺構と共に削られた可能性が高い。

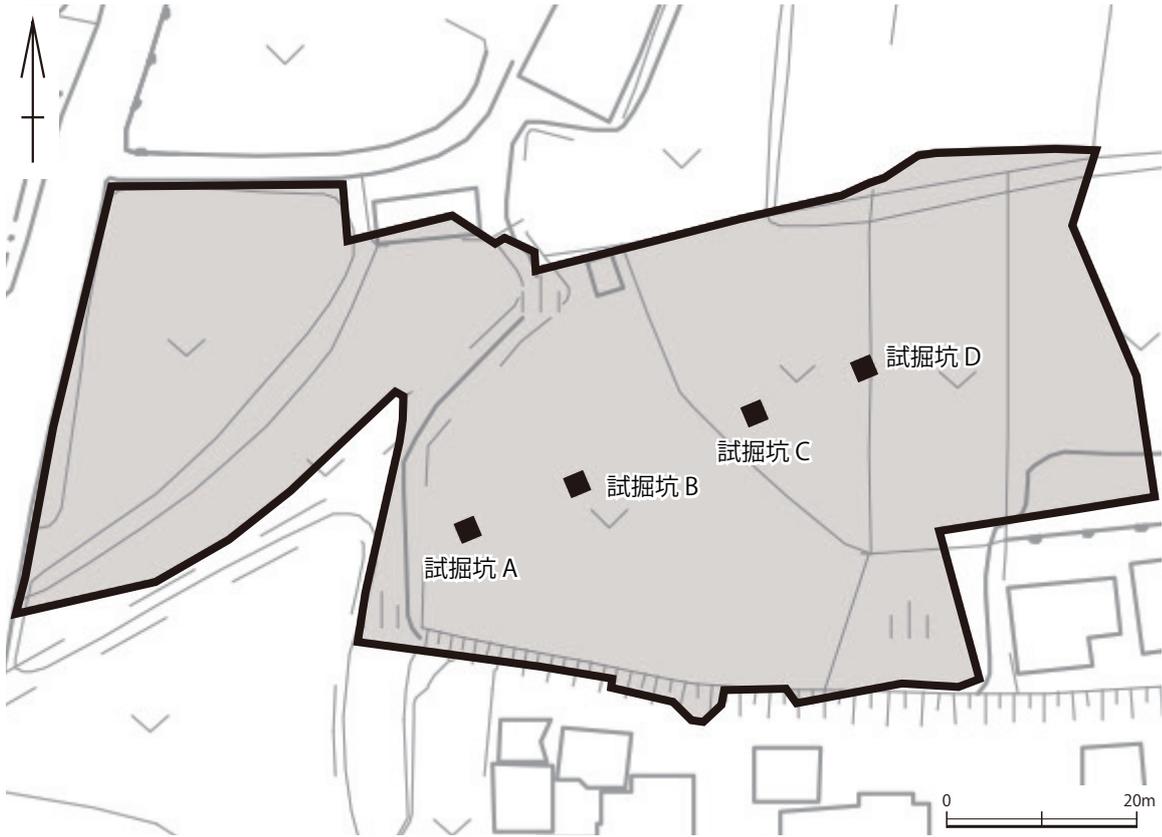


図 IV -1 -2 試掘坑配置図 (1 : 800)



写真 IV -1 -2 試掘坑A 遺構面A面 遺構・遺物検出状況 (南西から)



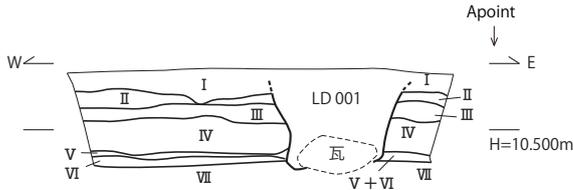
写真 IV -1 -3 試掘坑A 基盤上面 (南東から)



写真 IV -1 -4 試掘坑C 基盤上面遺構分布状態 (北東から)

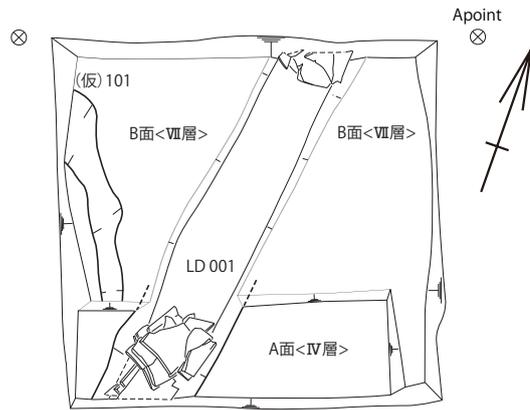


写真 IV -1 -5 試掘坑A 調査風景 (南西から)

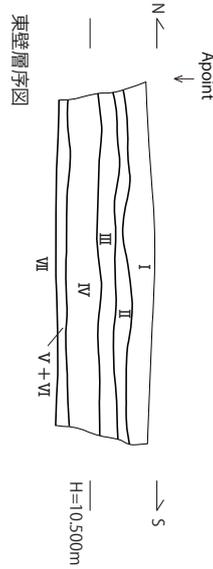


北壁層序図

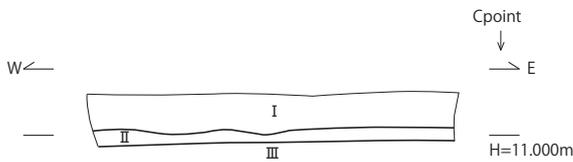
- |     |          |       |                         |
|-----|----------|-------|-------------------------|
| I   | 2.5Y5/2  | SiL   | 畑耕作土                    |
| II  | 2.5Y4/1  | SiL   | 畑床土? マンガン結核含む           |
| III | 7.5Y5/6  | SC    | クサリ礫?含む 客土(整地?)         |
| IV  | 10YR6/6  | SC    | クサリ礫?多く含む 客土(整地?) 遺構面A面 |
| V   | 10YR4/1  | SiC   | 均一 粒粗い 極めて薄い            |
| VI  | 7.5YR4/3 | SC    | しまり強い粘質土 整地?            |
| VII | 10YR5/6  | SC~HC | 洪積層起源基盤土(地山) クサリ礫多      |



遺構分布図

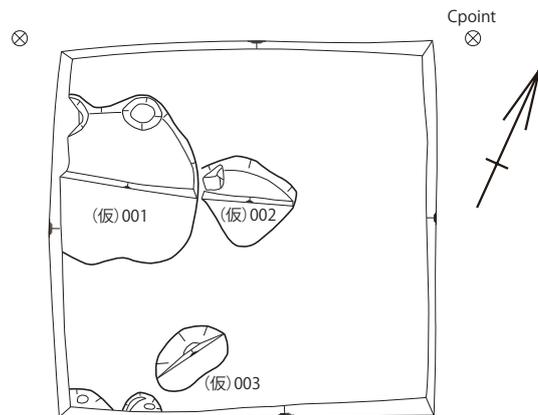


試掘坑A 遺構実測図(1:40)

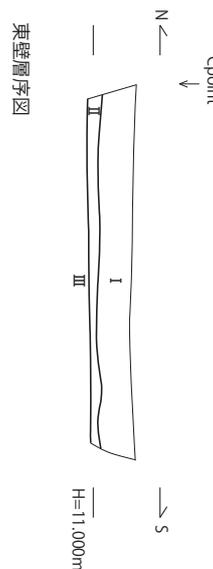


北壁層序図

- |     |         |     |                       |
|-----|---------|-----|-----------------------|
| I   | 10YR5/2 | SiL | 畑耕作土                  |
| II  | 10YR4/3 | SiC | 畑床土?整地? 均一層           |
| III | 10YR5/6 | SC  | クサリ礫 マンガン結核 洪積層起源(地山) |



遺構分布図



試掘坑C 遺構実測図(1:40)

図 IV -1 -3 試掘坑 A・試掘坑 C 実測図 (1:40)

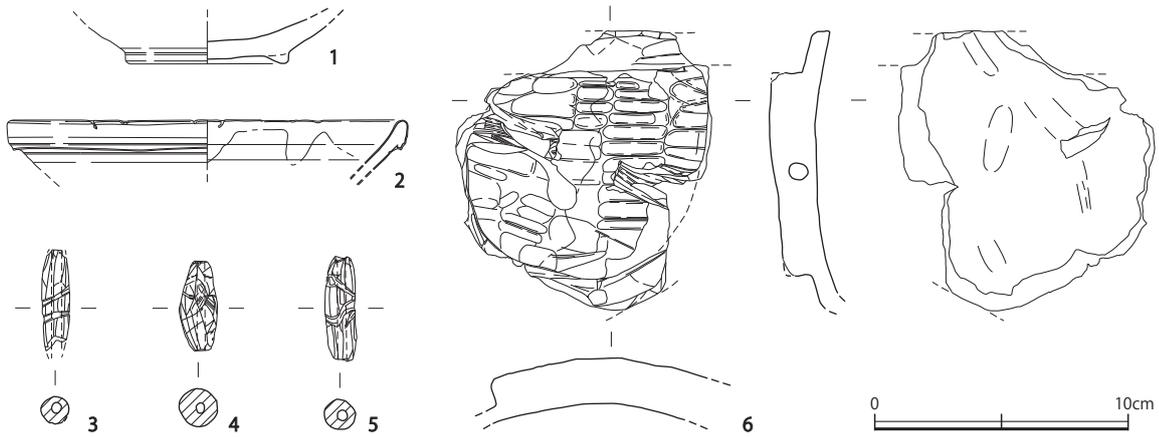


図 IV-1-4 出土遺物 (1 : 3)



写真 IV-1-6 出土遺物 (左から 1・2)



写真 IV-1-7 出土遺物 (左から 3~5)



写真 IV-1-8 出土遺物 (6 正面)



写真 IV-1-9 出土遺物 (6 側面)

表 IV-1-1 遺物観察表

No.	出土地点	形態・器種	法量 (cm)			備考
			口径/長さ	底径/幅	器高/高さ	
1	試掘坑 A 遺構面 A 面構成土内	土師器 坏	-	6.2	1.8+ $\alpha$	
2	試掘坑 A GL-40cm付近	白磁 碗	15.8	-	2.0+ $\alpha$	
3	試掘坑 B GL-30cm付近	土錘	4.0	1.1	-	- 使用痕あり
4	試掘坑 A 遺構面 A 面 溝状遺構 LD 001	土錘	3.6	1.5	-	- 使用痕あり
5	調査対象地内 表面採集	土錘	4.2	1.2	-	- 使用痕あり
6	試掘坑 C 仮 001 土坑	不明滑石製品	11.1+ $\alpha$	10.2+ $\alpha$	最大 1.7	石鍋転用品

## 2 長門国府跡・長門国分寺跡 NKF

調査番号	2020016 ※表 14-2 記載
所在地	長府紺屋町 1407 番
調査種類	確認調査
調査原因	宅地造成
原因者	株式会社プランハウス
調査後処置	調査終了後、現状復旧
調査面積	13,743.59 m <sup>2</sup>
調査期間	令和 2 年 6 月 1 日～8 月 24 日
調査担当者	藤原彰久

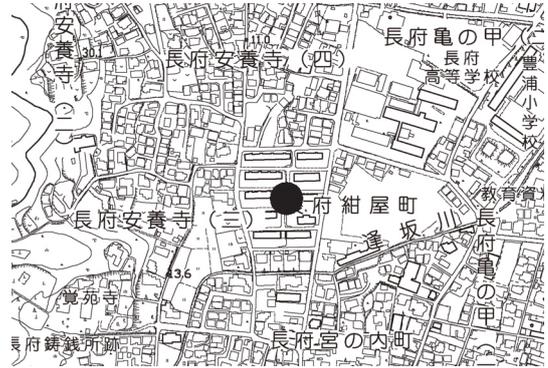


図 IV -2 - 1 調査対象地の位置 (1 : 10,000)

**調査経緯** 長門国府跡内での宅地造成工事計画に伴い、確認調査を実施した。

**位置と環境** 対象地は長門国府跡の西北部に位置し、長門国分寺跡の北側に位置する。

**堆積状況** 対象地の基本層序は I ～VIII 層に大別できる。なお、今回の確認調査では試掘溝の規模および湧水等による制約により、掘削深度は VIII 層中までにとどまり、基盤土層までは至っていない。I 層は現在の社員寮建設時の造成土。II 層は造成前の旧表土で耕作土。III 層は耕作盤土および近世以降の造成層で水平堆積をなす。試掘溝 1 および 2 では III 層の上面および下層部上面で杭や柱痕を検出した。IV 層以下は低地性の自然堆積層。IV 層は主に黄灰色から黒褐色を呈する粘質土主体の堆積層で、試掘溝 1 および 2 では IV 層上面で杭や柱痕などを検出した。V 層は粘質土主体の堆積層で、自然木の堆積層を含み腐植質、一部砂層が分布する。VI 層は粘土、シルト、砂の互層状堆積で、自然木や木炭、腐植土層などを含む。VII 層は粘土、シルト、砂礫の互層状堆積で、VI 層より砂礫層の割合が高い。VIII 層は暗灰黄色～褐灰色の粘質土層で、下層は砂礫層となる。

試掘溝毎の各層の検出標高は II 層が試掘



写真 IV -2 - 1 調査対象地近景 (東から)

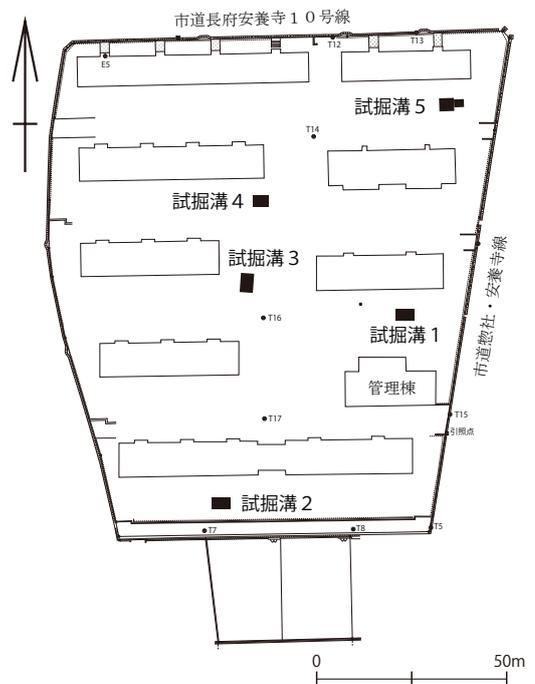


図 IV -2 - 2 調査区配置図 (1 : 2,000)

溝 1 : 9.98m、試掘溝 2 : 11.06 m、試掘溝 3 : 10.44 m、試掘溝 4 : 10.43 m、試掘溝 5 : 9.65 m で、Ⅲ層は試掘溝 1 : 9.84 m、試掘溝 2 : 10.82m、試掘溝 3 : 10.20m、試掘溝 4 : 10.20 m、試掘溝 5 : 9.43 m で、Ⅳ層は試掘溝 1 : 9.68m、試掘溝 2 : 10.54m、試掘溝 3 : 10.10m、試掘溝 4 : 10.04 m、試掘溝 5 : 9.38m となり、各層の検出標高は試掘溝 2、試掘溝 3、試掘溝 4、試掘溝 1、試掘溝 5 の順に低くなり、対象地の旧地形は南西―北東方向に傾斜する。

Ⅴ層～Ⅷ層は粘土、シルト、砂礫の互層状堆積で、逢坂川（国分寺川）および西側丘陵部の小規模な開析谷からの流れ込みにより形成された堆積層と見られる。Ⅶ層・Ⅷ層は砂礫層を主体とする粘土、シルト、砂礫の互層状堆積で、部分的に自然木堆積層や腐植土層が見られる。自然木や種子、木炭などの自然遺物が出土したほか、南端部に位置する試掘溝 2 のⅦ b 層（砂礫層）中から器面調整が貝殻条痕の粗製深鉢および浅鉢片、精製土器の浅鉢など縄文時代晩期前葉頃とみられる土器片が出土した。確認範囲では、Ⅶ層およびⅧ層からは縄文土器片以外の土器や瓦などの遺物は出土していない。Ⅵ層は粘土、シルト、砂層の互層状堆積で、自然木や植物質の堆積層や腐植土層を含む。試掘溝 5 では上面から掘り込まれた杭を検出した。試掘溝 1 では土師器杯や甕の胴部片、格子目叩きの平瓦片、鉾滓片など古代の遺物が若干出土したが、その他の試掘溝からは自然木（枝、樹根）、種子、木炭細片など自然遺物のみが出土した。Ⅴ層は暗灰黄色から黒褐色を呈する粘質土層で、部分的に砂層が堆積する。試掘溝 1、2、3 では自然木などの木質堆積層が厚く堆積する。試掘溝 2 はサクラやマツなどの樹木の大型の枝のほか、下層部から木葉やドングリやマツなどの種子が出土し、流路の停滞部に自然遺物が堆積した状況が見られる。土師器や須恵器、瓦など古代から中世初頭頃の遺物が出土したほか、杭や木筒状木製品、籌木状木製品などが出土した。Ⅳ層は黄灰色から黒褐色を呈する粘質土を主体とし、部分的に砂層が堆積する。土師器、須恵器、瓦器、瓦、中世陶器など中世の遺物が出土した。上面は遺構面と見られ、試掘溝 1 では杭、試掘溝 2 では杭および柱痕を検出した。

#### 調査結果

対象地内に試掘溝 5 箇所を設定し、調査を実施した結果、対象地の旧地形は逢坂川（国分寺川）および西側丘陵部に開析した小規模な開析谷の流路内と見られ、堆積状況から古代以前は土地利用が希薄であった状況が窺える。ただし、対象地南端部に位置する試掘溝 2 のⅦ b 層から縄文時代晩期前葉頃の土器が出土しており、対象地南側の周辺域に当該時期の遺構分布が想定される。流路が埋没した段階から土地利用が順次進んでいったとみられ、試掘溝 5 ではⅥ層埋没後の上面で杭が検出された。その他の試掘溝ではⅤ層およびⅣ層の堆積段階で粘質土の水平堆積へと変化することから、その段階から土地利用が想定される。

検出遺構は杭または柱痕のみで、堆積土の土性などを勘案して、耕地としての利用が想定される。なお、対象地の東側に位置する紺屋尻地区の調査では、東西方向の平安期の溝状遺構 1 条とその南側から北西―南東方向の中世の杭列が確認されており、検出遺構の種類や時期などから、今回の調査で検出された杭や柱痕などについてもこれらと関連する可能性が想定される。承応年間（1652～1655）の『長府図』などにおいても国分寺北側の対象地付近は田として表記され、耕地としての利用が絵図の記載からも裏付けられる。



写真 IV-2-2 試掘溝 1 完掘状況 (南から)



写真 IV-2-3 試掘溝 1 西壁堆積状況 (東から)



写真 IV-2-4 試掘溝 1 木杭出土状況 (東から)



写真 IV-2-5 V層(木質層)自然木出土状況(南から)



写真 IV-2-6 試掘溝 2 柱痕出土状況 (北から)



写真 IV-2-7 試掘溝 2 完掘状況 (南から)



写真 IV-2-8 試掘溝 2 北壁下層部堆積状況(南から)



写真 IV-2-9 試掘溝 2 西壁堆積状況 (東から)



写真 IV - 2 - 10 試掘溝 2 北壁柱痕出土状況 (南東から)



写真 IV - 2 - 11 試掘溝 3 完掘状況 (西から)



写真 IV - 2 - 12 試掘溝 3 南壁・西壁堆積状況 (北東から)



写真 IV - 2 - 13 試掘溝 3 V層上面木質検出状況 (南西から)



写真 IV - 2 - 14 試掘溝 4 完掘状況 (西から)



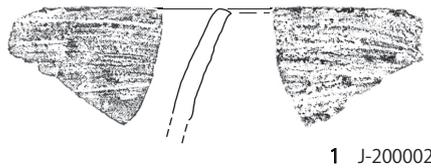
写真 IV - 2 - 15 試掘溝 4 南壁下層部堆積状況 (北から)



写真 IV - 2 - 16 試掘溝 5 北壁堆積状況 (南から)



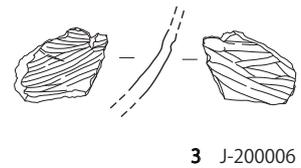
写真 IV - 2 - 17 試掘溝 5 完掘状況 (東から)



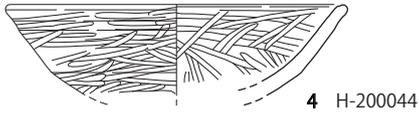
1 J-200002



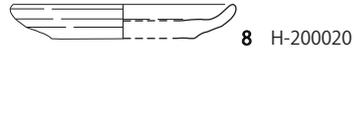
2 J-200005



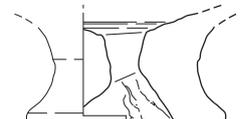
3 J-200006



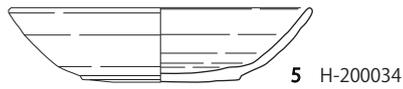
4 H-200044



8 H-200020



11 H-200040



5 H-200034



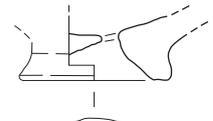
9 H-200054



6 H-200004



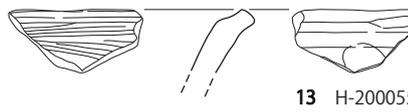
10 H-200048



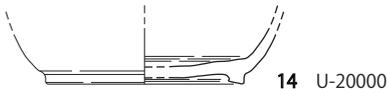
12 H-200039



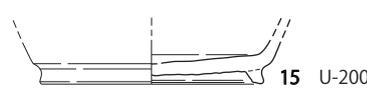
7 H-200045



13 H-200055



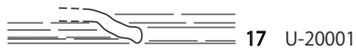
14 U-200006



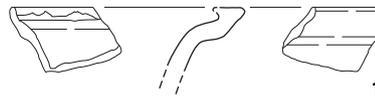
15 U-200013



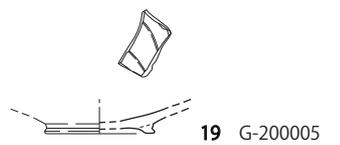
16 U-200001



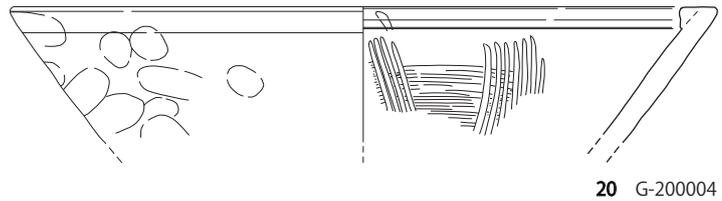
17 U-200019



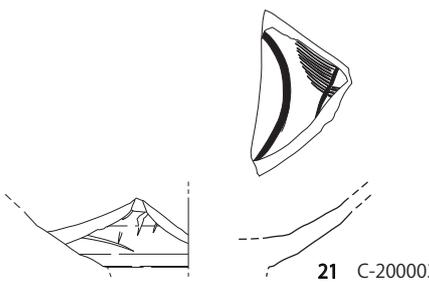
18 U-200003



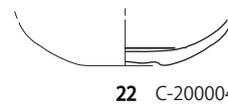
19 G-200005



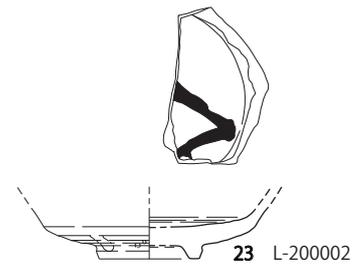
20 G-200004



21 C-200003



22 C-200004



23 L-200002



图 IV -2 -3 出土遺物実測図 (1) (1 : 3)

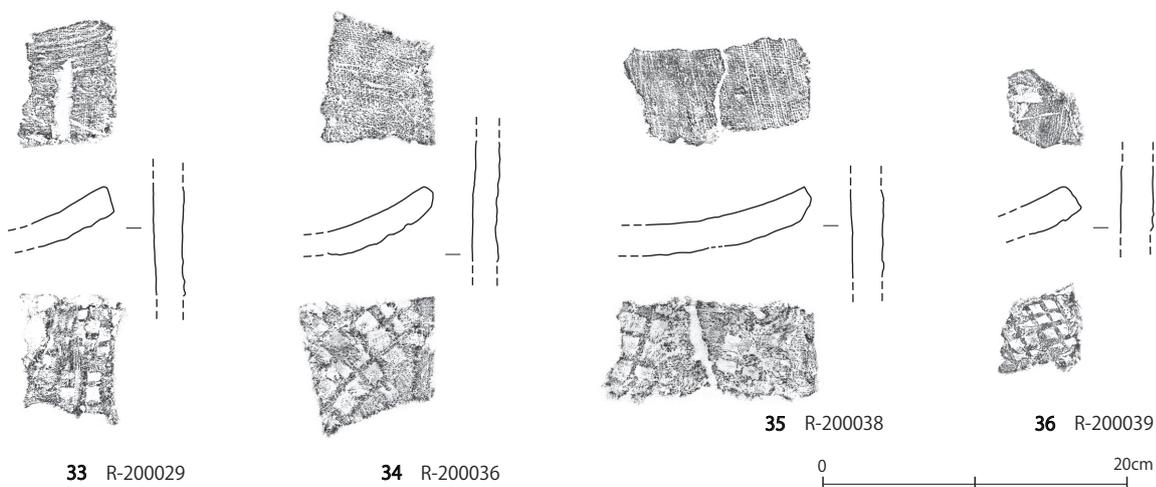
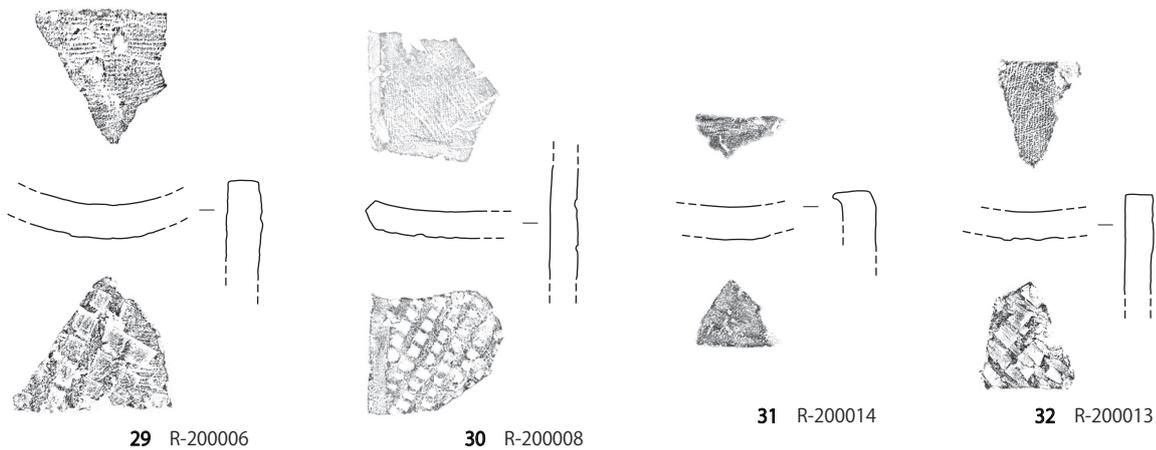
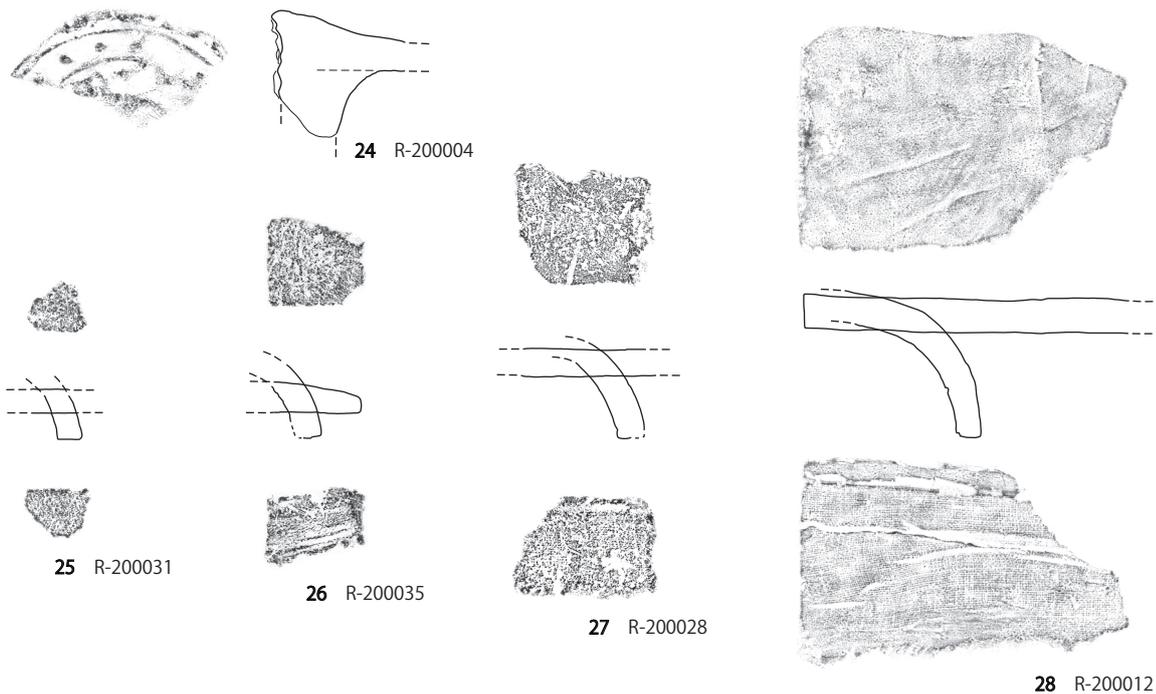


图 IV -2 -4 出土遺物実測図 (2) (1 : 5)

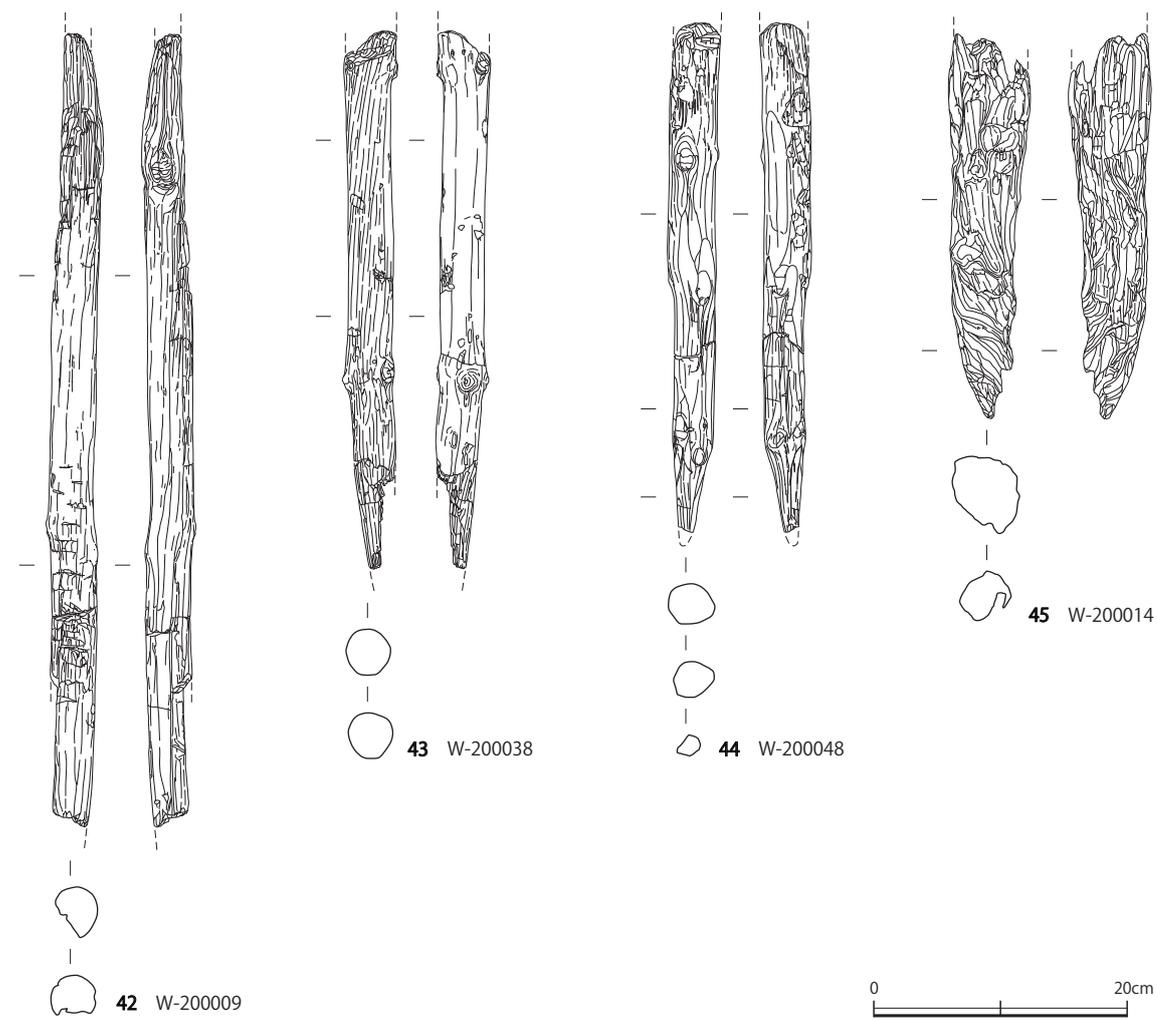
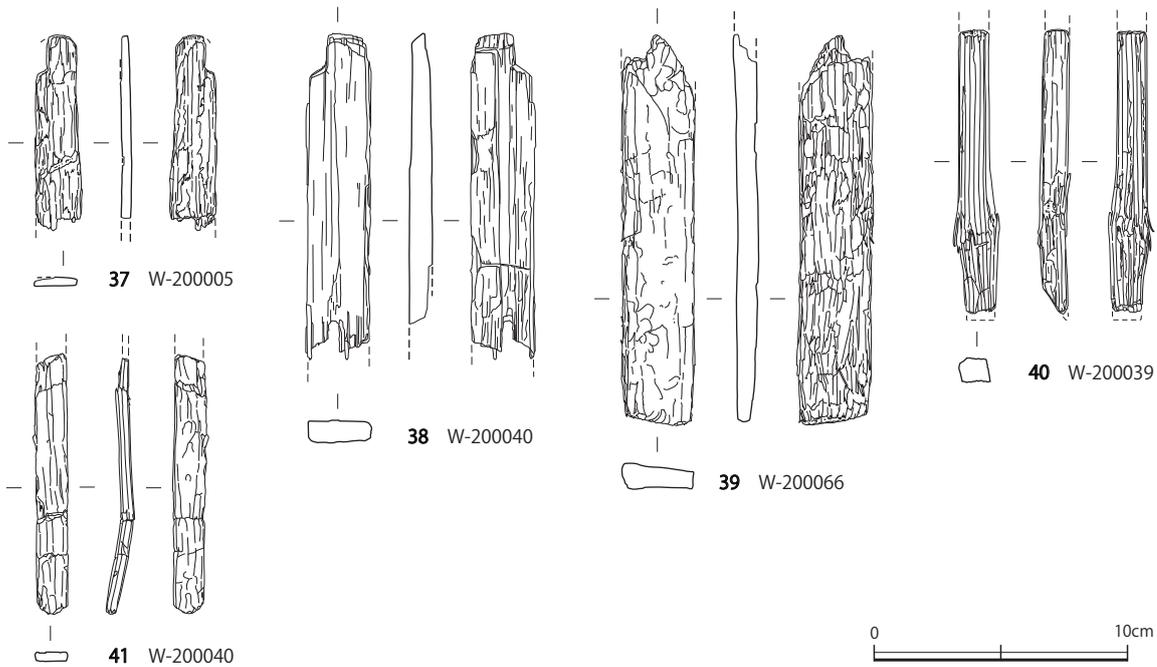


図 IV - 2 - 5 出土遺物実測図 (3) (1 : 3、1 : 6)

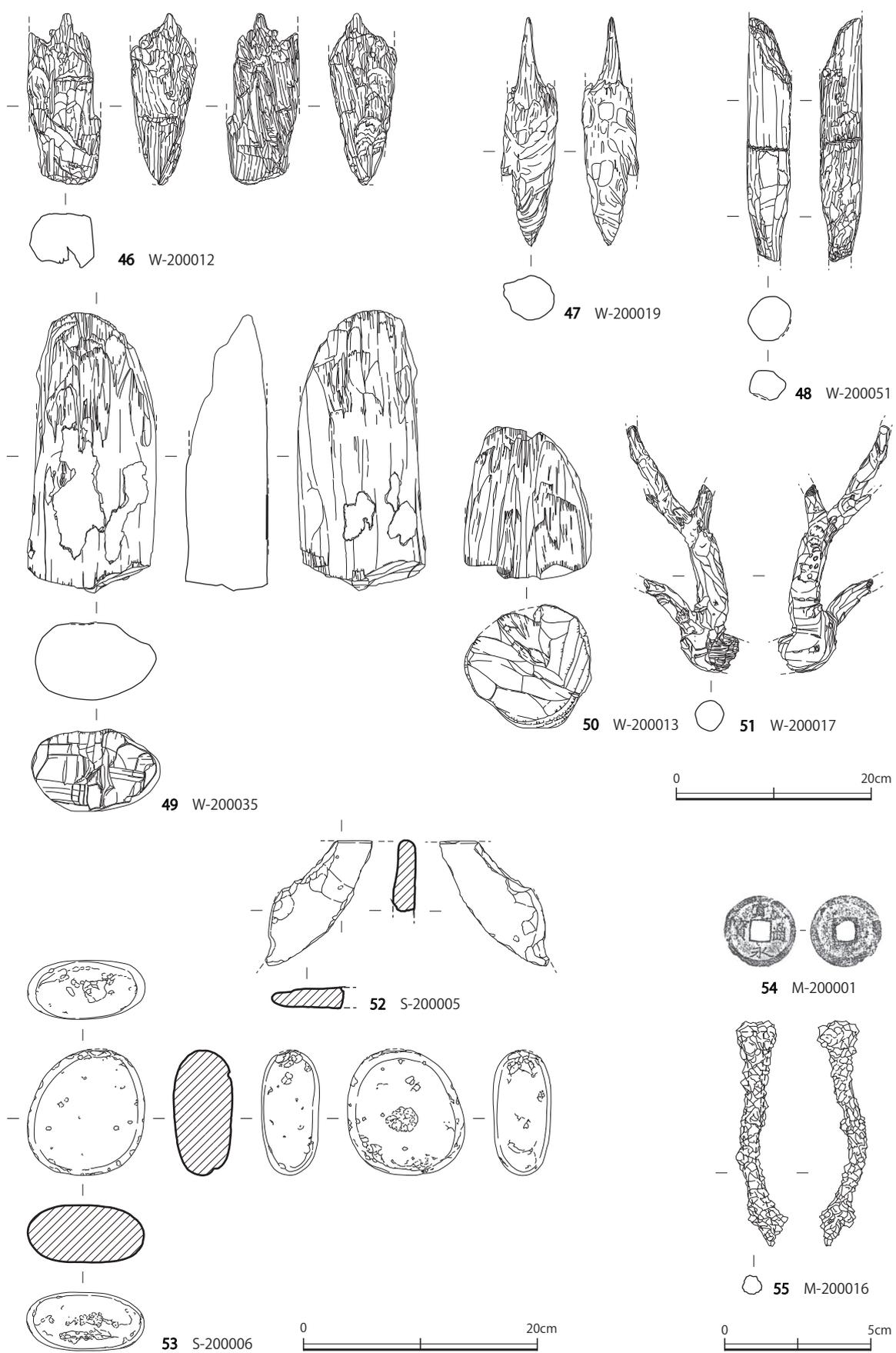


图 IV-2-6 出土遺物実測図 (4) (1:6、1:5、1:2)

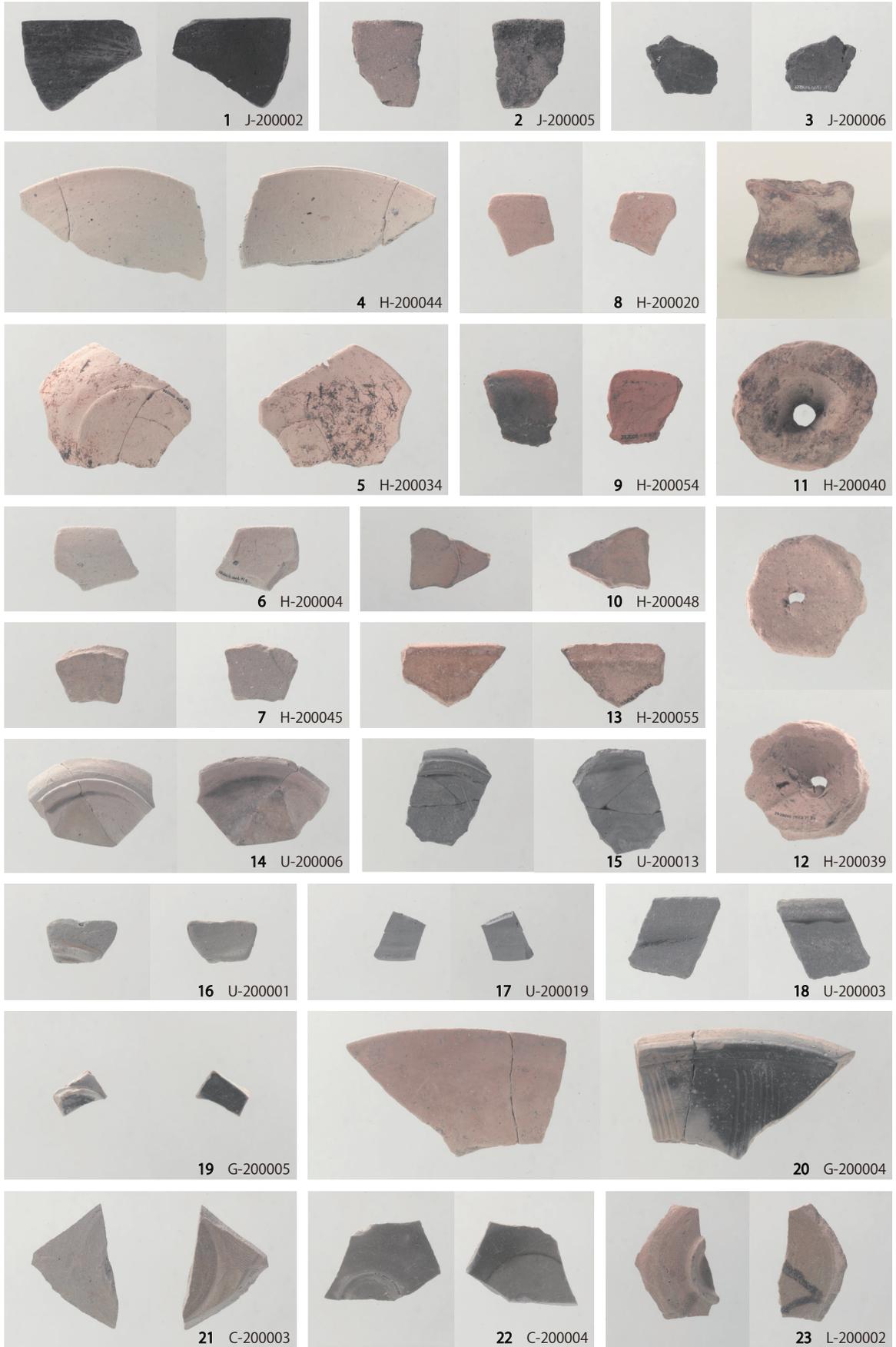


写真 IV -2 - 18 出土遺物 (1)

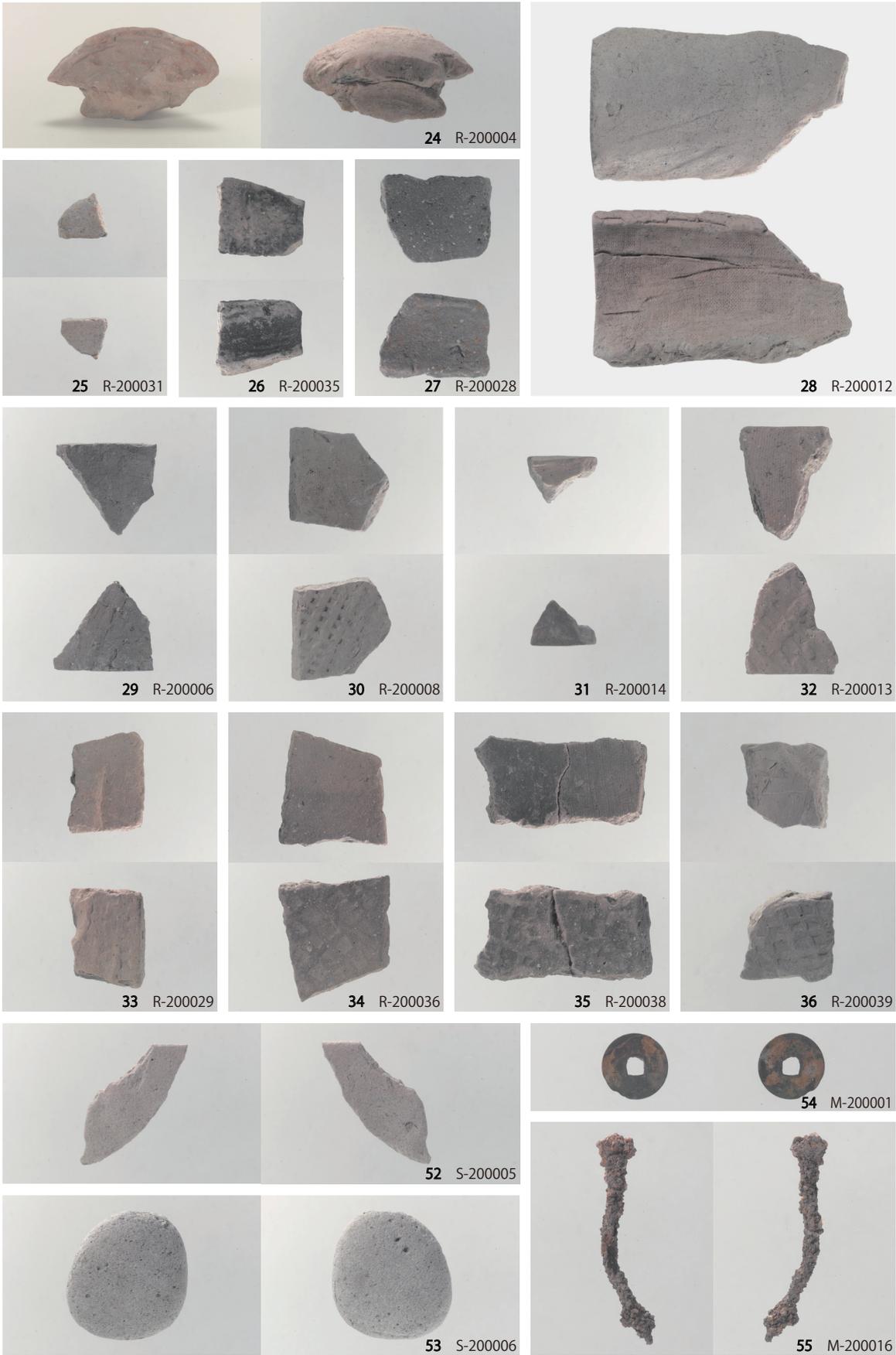


写真 IV -2 - 19 出土遺物 (2)

### 3 (未周知) 官林山古墳・安岡胡麻田遺跡近接地 安岡長久遺跡 SYN

調査番号	試掘調査：2020034 ※表 14-3 記載
所在地	富任町五丁目 11 番・12 番
調査種類	試掘調査
調査原因	安岡地区複合施設整備事業
原因者	下関市都市整備部市街地開発課
調査後処置	調査終了後、現状復旧
調査面積	182㎡
調査期間	令和 2 年 10 月 20 日～令和 3 年 2 月 4 日
調査担当者	松永博明

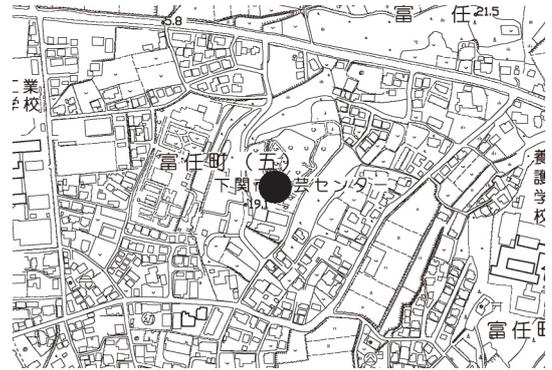


図 IV -3 -1 調査対象地の位置 (1 : 10,000)

**調査経緯** 下関市役所都市整備部市街地開発課が下関市園芸センター内で計画する安岡地区複合施設整備事業に伴う事前調査として実施した。

事業対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、周辺には官林山古墳、安岡胡麻田遺跡、神田遺跡、潮待貝塚などが分布している。そのため、事業に先行して地下に包蔵される文化財の有無を把握し、当該事業計画に係る埋蔵文化財の取り扱いを判断するための基礎資料を作成する目的で試掘調査を実施した。

**位置と環境** 調査対象地は、通称官林山（ピンピン山）と呼ばれる標高 33.3 m の丘陵西側で、調査時点では下関市園芸センターとして温室が建ち並び、花木の植栽と展示が行われていた。

この土地の本来の姿については、大縮尺の地形図が作成されておらず、昭和 22 年（1947）の米軍撮影の空中写真で読み取るしかない。丘陵上は頂部を中心に山林が残り、南方は畑として開墾されている。西方は平野部にかけて畑や水田として開墾されていたことがわかる。



写真 IV -3 -1 調査対象地遠景（南東から）

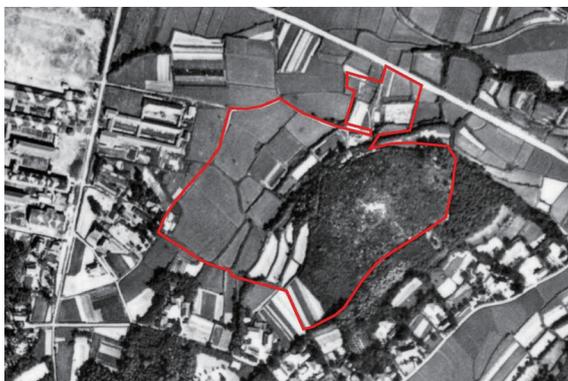


写真 IV -3 -2 米軍撮影空中写真 R515-2.12 (1947.10.4 撮影) ※赤線は調査対象地



写真 IV -3 -3 開設当初の農業試験場全景 (『40 年のあゆみ』下関市園芸センター 1998)

その後、昭和 33 年（1958）に下関市農業試験場が設立され、斜面部を造成して建物が建設された。この時期には、丘陵上で果樹園の開墾工事中に官林山古墳が発見されている。さらに昭和 48 年（1973）には下関市園芸センターへと名称変更されるとともに、植物に関する展示や講習を行う施設へと目的を変え、平地部を中心に温室等の施設拡充が行われた。また、この時期には、周辺地も同様に造成が行われ、宅地化が進み現在に至っている。

試掘調査は、事業計画地全域の遺構分布の有無を把握するため、試掘溝および試掘坑を設定した。しかし、駐車場を除く園内には、多くの温室や作業棟が建てられ、園路もアスファルト舗装されており、これらを避けて試掘坑を設定しなければならなかった。まず、4 箇所の試掘溝と 13 箇所の試掘坑を設定して開始し、その後の調査の進展に伴い調査成果を補完するため試掘坑 4 箇所を追加した。

試掘溝については、機械力によって上層土の掘削を行い、その後は人力によって遺構の検出と確認を行った。試掘坑は人力によって発掘し、同様に遺構の検出と確認を行った。現地調査終了後、試掘溝は機械力によって埋め戻し、舗装を行った。試掘坑は人力によって転圧を行い埋め戻し、現況に復旧した。

#### 堆積状況

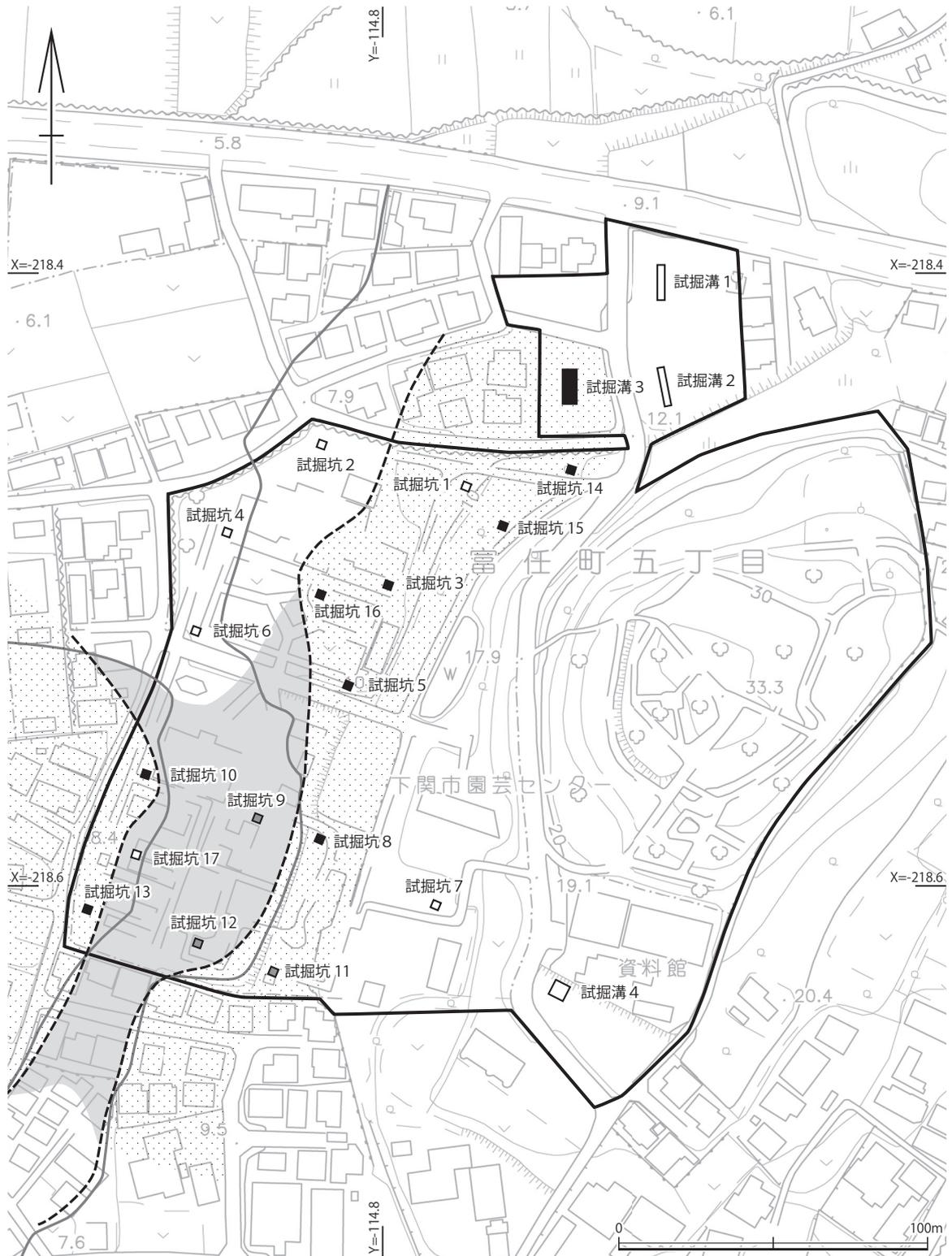
対象地の基本層序は 6 層に分類できる。Ⅰ層は現在の表土ならびに造成に伴う客土で、昭和 33 年（1958）の下関市農業試験場建設以降の堆積。客土は丘陵地の掘削で生じたと思われる土砂や他所から運び込まれた建築残土が主なものである。Ⅱ層は近世から下関市農業試験場建設までの表土で、畑地や水田耕作土と床土が主なものである。Ⅲ層は中世から近世にかけての自然堆積土。試掘坑 13 では中世風成砂が堆積する。Ⅳ層は古代から中世の土器を含む遺物包含層で、弥生土器や縄文土器は含まれない。Ⅴ層は古代以前の自然堆積層で、埴土が主体である。Ⅵ層は沖積層起源の基盤土で、中部泥層及び基底礫層。Ⅶ層は洪積層起源の基盤土で、場所によって礫質と泥質の堆積の違いがある。

調査対象地は、北から南に向かって緩やかに下る地形となっているが、調査の結果、かなりの厚さで客土造成が行われていることが判明した。旧地形については、昭和 45 年（1970）測図の下関基本図（1：2,500）を基に検討した。この図の標高 7 m をたどると、調査地域の平坦部では南北に細長い谷となっており、両側が段丘状の地形になっていることがわかる。これを参考に調査成果を取りまとめたのが成果図（図 2）である。

#### 検出遺構

遺構が確認されたのは、試掘溝 3、試掘坑 3・5・8・10・13～16 の 9 か所で、基盤及び基盤上の自然堆積土に柱穴や溝などの遺構が分布している。試掘坑 14・15 は丘陵の裾部に沿って広がる偏狭な段丘面または人為的平坦面で、試掘溝 3、試掘坑 3・5・8・16 は、下位の段丘崖から段丘面である。また、遺構は確認されなかったものの遺物包含層が確認された試掘坑 11 周辺も、基盤土の状態が類似しており遺構が分布すると思われる。

これに対し、試掘坑 10・13 は西側の段丘の縁辺に位置する。遺構とともに遺物包含層が堆積し、特に試掘坑 13 は出土遺物の量が多く、段丘上での遺構の密度が高いことが想定される。両遺構分布区域の中央は、試掘坑 6 を除く試掘坑で粘土やシルト質の低地堆積が顕著で、大部分が不安定な沼状の湿地帯であったと思われる。試掘坑 9 では遺物包含層が堆積し、試掘坑 12 では包含層はないものの低地堆積の重埴土中から遺物が出土している。細い谷状の低地には、東西両岸から遺物を含む土砂が流れ込んだと思われる。



凡例

- : 標高 7 m (1970 年測図)      - - - - - : 旧地形 (谷縁辺ライン)
- 調査区 / ■ : 遺構あり      ■ : 遺物包含層あり      □ : 遺構・遺物包含層なし、不明
- 要保護措置 / ○ : 遺構分布想定範囲      ■ : 遺物包含層分布想定範囲

図 IV - 3 - 2 試掘調査成果図 (1 : 2,000)

**出土遺物** 各調査区で確認された遺構の時期については、ほとんどが土師器小片で時期を特定できない。しかし、遺物包含層等から出土した土器は古墳～古代の土師器（1・2）や須恵器（3～6）、古代～中世にかけての緑釉陶器（7）や青磁・白磁（8・9）などであることから、遺構はこの時期のものであると思われる。北方の試掘溝3では古代にさかのぼる土器は見られないが、南方の試掘坑8～13ではより古い古代の土師器や緑釉陶器を含むという違いが認められる。このほか、試掘坑10からは姫島産黒曜石の剥片が見つかった。

**調査成果** 試掘坑10・13の立地する段丘西側の下関工科高等学校の敷地内に分布する神田遺跡では縄文時代の遺構や遺物に加え、平安時代を中心とした古墳時代以降の遺構や遺物が確認されている。このたびの調査地には、神田遺跡や試掘坑10・13の立地する段丘を中心とした古代～中世にかけての集落が広がっている可能性が高い。

実施した試掘調査により遺構分布が確認され、調査終了後に「安岡長久遺跡」として、山口県遺跡台帳に新規登録された。

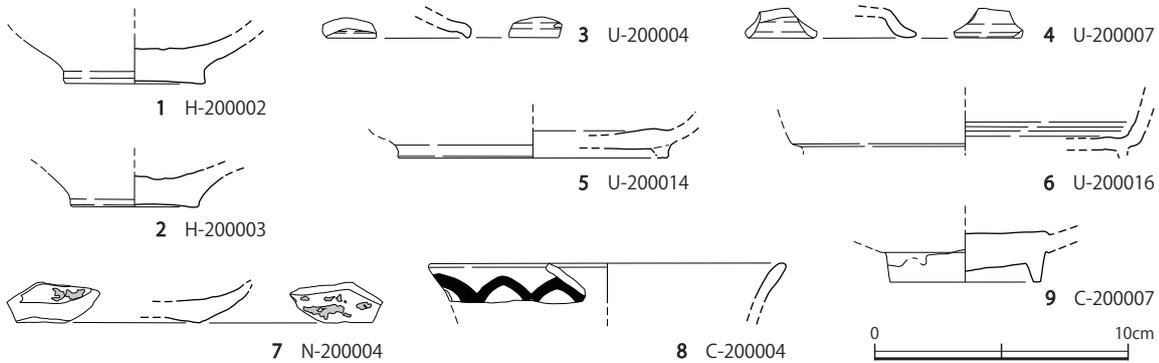


図 IV-3-3 出土遺物（1：3）

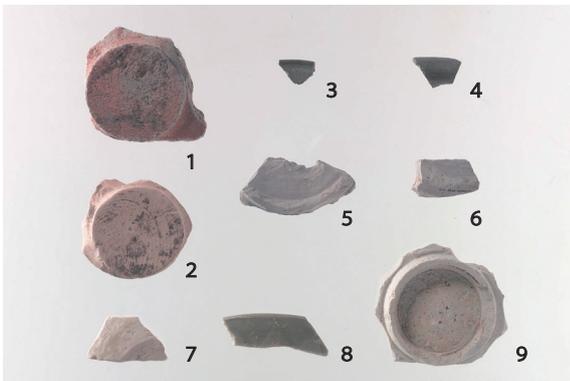


写真 IV-3-4 出土遺物

表 IV-3-1 出土遺物一覧表 法量：cm、（ ）は復元

番号	遺物番号	調査区	出土位置	種別	器種	口径	底径	器高	備考
1	H-200002	試掘坑13	Ⅲ1層	土師器	坏	—	5.6	—	底部糸切り痕、11世紀～12世紀
2	H-200003	試掘坑13	Ⅲ1層	土師器	坏	—	5.2	—	底部糸切り痕、11世紀～12世紀
3	U-200004	試掘坑13	Ⅲ1・2層	須恵器	坏蓋	—	—	—	9世紀～10世紀
4	U-200007	試掘坑13	Ⅲ1層	須恵器	坏蓋	—	—	—	9世紀～10世紀
5	U-200014	試掘坑9	Ⅳ1層	須恵器	坏身	—	(10.8)	—	9世紀～10世紀
6	U-200016	試掘坑16	I・II1層	須恵器	坏身	—	(13.0)	—	9世紀～10世紀
7	N-200004	試掘坑9	Ⅳ1層	緑釉陶器	坏	—	—	—	
8	C-200004	試掘溝3	Ⅳ1層	青磁	碗	(14.2)	—	—	龍泉窯系、外面鑄蓮弁文、13世紀～14世紀
9	C-200007	試掘坑8	I3層	白磁	碗	—	6.0	—	高台間露胎、11世紀～12世紀



写真 IV -3 - 5 試掘溝 1 完掘状況



写真 IV -3 - 6 試掘溝 3 完掘状況



写真 IV -3 - 7 試掘溝 4 完掘状況



写真 IV -3 - 8 試掘坑 5 完掘状況



写真 IV -3 - 9 試掘溝 8 完掘状況



写真 IV -3 - 10 試掘溝 10 完掘状況



写真 IV -3 - 11 試掘溝 13 完掘状況



写真 IV -3 - 12 試掘溝 16 完掘状況

## 4 秋根遺跡 KAN

調査番号	2020050 ※表 14-4 記載
所在地	秋根南町二丁目 1-15
調査種類	確認調査
調査原因	賃貸共同住宅の建設
原因者	緑都開発株式会社
調査後処置	調査終了後、現状復旧
調査面積	895.72 m <sup>2</sup>
調査期間	令和3年1月12日～2月5日
調査担当者	藤原彰久



図 IV-4-1 調査対象地の位置 (1 : 10,000)

**調査経緯** 秋根遺跡内での共同住宅建設工事計画に伴い、確認調査を実施した。

**位置と環境** 対象地は秋根遺跡の南東部に位置し、延行条里遺跡との分布境界付近に位置する。対象地の東側に隣接する秋根遺跡（川久保地区）では、平成23年度に確認調査を実施し、平成24年度に本発掘調査を実施し、縄文時代晩期の大溝や中世から近世にかけての井戸や土坑、区画溝などの集落遺構が確認された。また、対象地の北東約200mに位置する延行条里遺跡（白河内地区）では、平成27年度に確認調査、平成28年度に工事立会を実施し、中世の土坑、溝、柱穴群を検出しており、対象地内においても同様の集落遺構の分布が想定された。



写真 IV-4-1 調査対象地近景 (西から)

**堆積状況** 対象地の堆積状況はⅠ～Ⅳ層の大別4層に分類でき、Ⅰ層は現在の整地に伴う造成土、Ⅱ層は現代の宅地造成土、Ⅲ層は黒色の粘質土を主とする低地性堆積層で、Ⅳ層は砂礫層。

Ⅲ層は土性の差異からⅢa～Ⅲf層に細分ができる。出土遺物からⅢa層は近現代、Ⅲb層は中世から近世、Ⅲc層は中世、Ⅲd層は古代以降の堆積層とみられる。Ⅲa層は黒褐色シルト質埴土および暗灰黄色重埴土で、表層部はやや腐植質。造成前の旧表土で、表層部に畝状の起伏があり、耕作土の可能性がある。染付や銅線など近現代の遺物が出土した。Ⅲb層は黄灰色および暗灰黄色の砂質埴土で、風化礫の小片～細片を多く含み、草根痕とみられる孔が顕著。土師器や瓦、染付などのほか、桶板とみられる木製品片など中世から近世の遺物が出土した。Ⅲc層は黄灰色および暗灰黄色の重埴土で、若干砂粒を含む。土師器や加工木片などのほか、古代の緑釉陶器片が出土した。Ⅲd層は黄灰色シルト質埴土および暗灰黄色シルト質埴土。土師器や緑釉陶器など古代の遺物が出土したほか、姫島産黒曜石の剥片が出土した。Ⅲe層は主に黒色から暗黄灰色のシルト質埴土から重埴土で、試掘溝2では部分的に流路状の堆積が見られる。Ⅲe層以下は掘削の範囲内で遺物は確認できなかった。Ⅲf層は黄灰色の砂

壤土で、IV層は灰色から黄灰色の砂土で砂礫層となる。固くしまり、湧水が顕著。調査に伴う掘削深度はIV層中にとどまる。

III層以下の試掘溝毎の各層の上面の検出標高は、III a 層は試掘溝 1 : 8.66 ~ 8.70 m、試掘溝 2 : 8.60 ~ 8.73 m、III b 層は試掘溝 1 : 8.49 ~ 8.55 m、試掘溝 2 : 8.40 ~ 8.60 m、III c 層は試掘溝 1 : 8.22 ~ 8.32 m、試掘溝 2 : 8.24 ~ 8.38 m、III d 層は試掘溝 1 : 8.08 ~ 8.12 m、試掘溝 2 : 8.10 ~ 8.21 m、III e 層は試掘溝 1 : 7.99 ~ 8.03 m、試掘溝 2 : 7.96 ~ 8.04 m、III f 層は試掘溝 1 のみで 7.90 ~ 7.98 m、IV層は試掘溝 1 : 7.84 ~ 7.93m、試掘溝 2 : 7.86 ~ 7.96m となり、各層の検出標高は試掘溝 2 の方が試掘溝 1 より若干高く、対象地の旧地形は東西方向にわずかに傾斜する。

#### 調査結果

対象地内に試掘溝 2 箇所設定し、確認調査を実施した結果、対象地内は現代の造成土が現地地表下約 2 m 付近まで厚く堆積し、現代の造成土より下層は古代から近世にかけての遺物を含む低地性の自然堆積層からなり、埋没後の近現代以降に耕地化などの土地利用が進んだ状況が確認された。秋根遺跡（川久保地区）の遺構検出面（基盤土層）の標高は 8.80 m ~ 9.20 m 付近、延行条里遺跡（白河内地区）の遺構検出面（基盤土層）の標高は約 11.0m 付近であり、いずれも基盤土層は洪積層の風化基盤土であるのに対し、今回の調査対象地のIV層の検出標高は秋根遺跡（川久保地区）より約 0.8m 低く、また沖積世の堆積層からなるため、今回の調査対象地と秋根遺跡（川久保地区）・延行条里遺跡（白河内地区）の調査区との間に台地部と低地部の地形変換があり、対象地の旧地形は秋根遺跡の集落遺構が分布する台地の南側周縁の砂子多川が形成する低地部に位置するとみられ、掘削の範囲内では集落遺構の分布は確認できなかった。III層の堆積時期は出土遺物から古代～中世、および近世以降の堆積層とみられ、秋根遺跡（川久保地区）や延行条里遺跡（白河内地区）の集落遺構の時期と重複する時期の遺物を確認した。今回の調査で出土した遺物はいずれも周辺部からの流れ込みと見られる。なお、緑釉陶器など古代の遺物が確認されたことから、秋根遺跡（川久保地区）や延行条里遺跡（白河内地区）の調査では希薄であった古代の遺構が対象地周辺に分布する可能性がある。

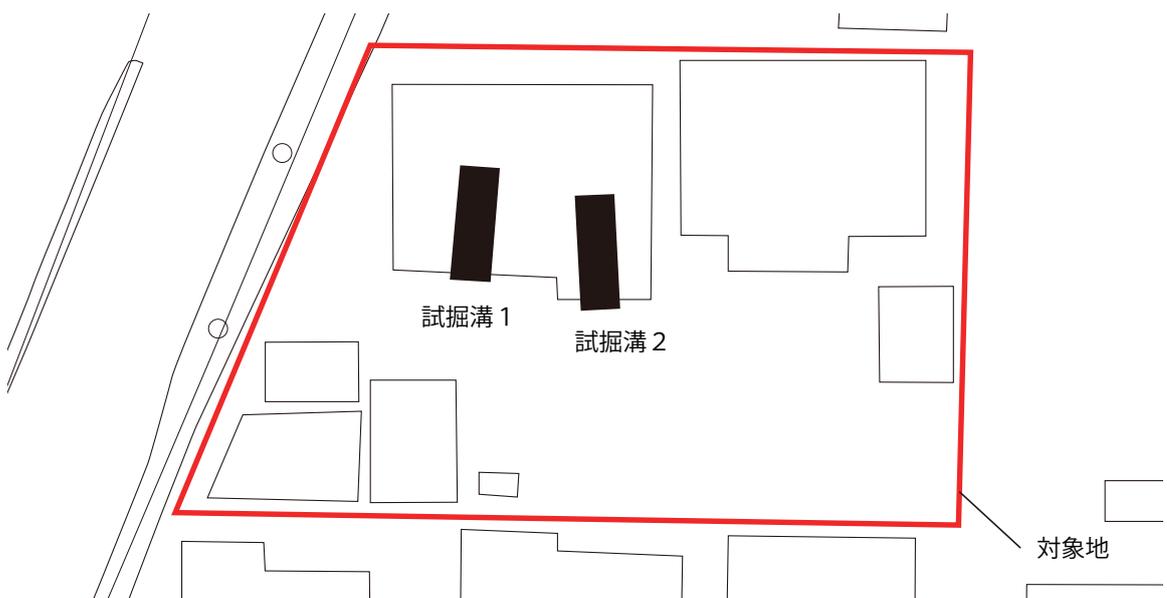
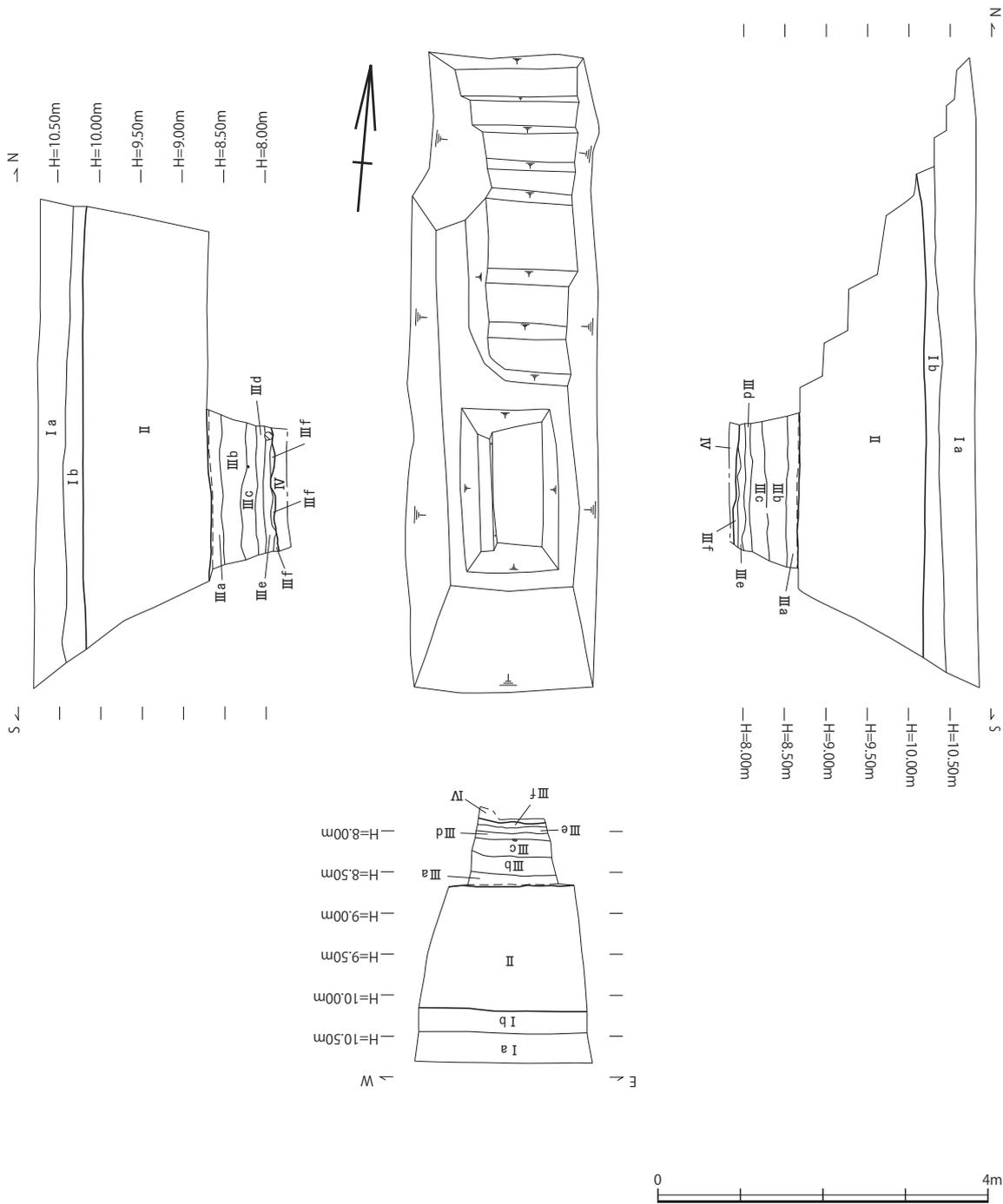
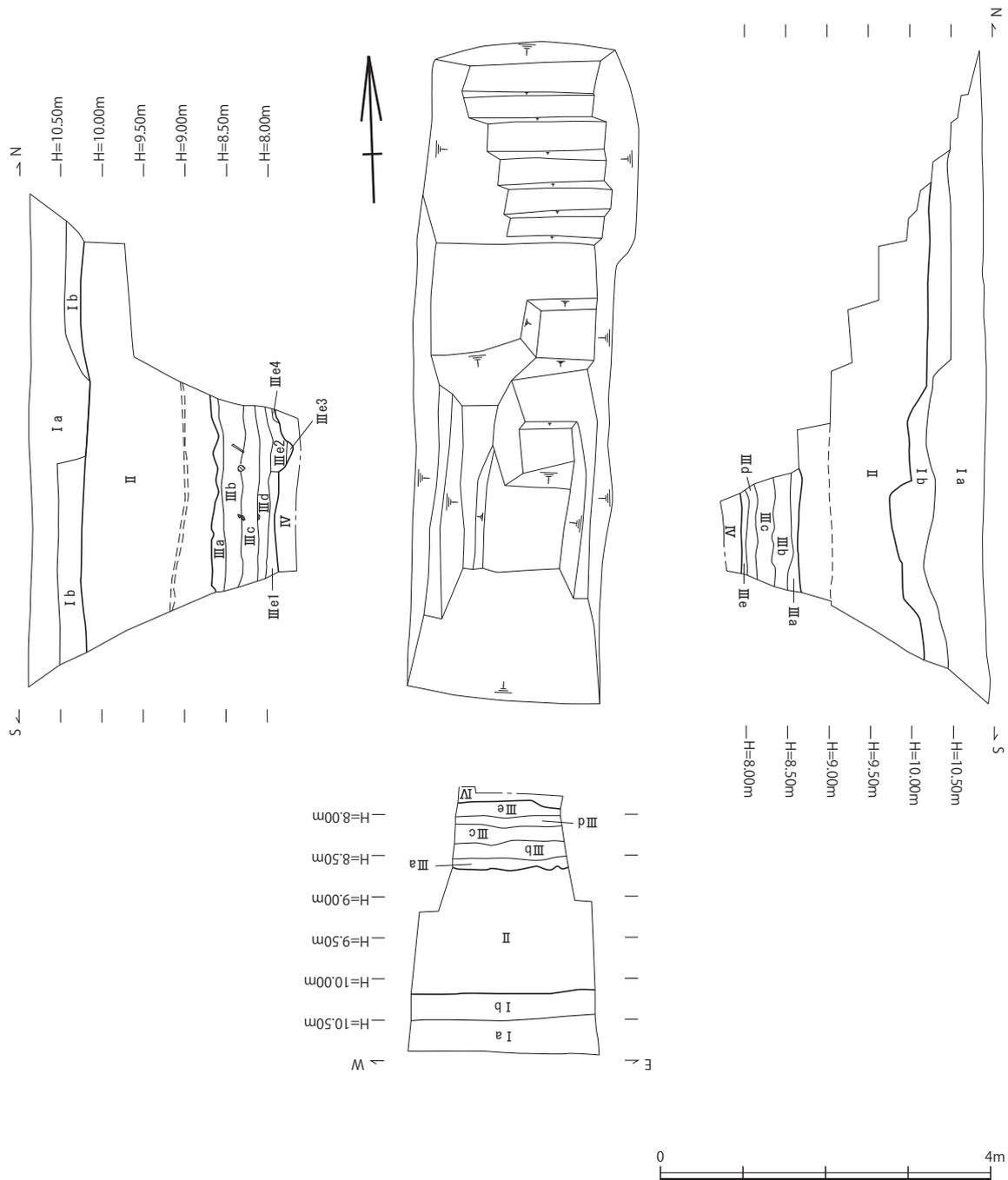


図 IV -4 -2 調査区配置図





I・II：【現代造成土】

III a：暗灰黄色（2.5Y4/2）重埴土（表層部やや腐植質）

III b：暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質埴土（風化礫細片多く含む）

III c：暗灰黄色（2.5Y4/2）重埴土（風化礫細片含む）

III d：暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質埴壤土

III e1：暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト質埴土（上層部やや腐植質）

III e2：黒色（10YR2/1）重埴土（若干砂粒含む）

III e3：褐灰色（10YR4/1）重埴土

III e4：黄灰色（2.5Y4/1）砂質埴土

IV：黄灰色（2.5Y6/1）砂土（1mm以下の細砂・粗砂、ブロック状に重埴土が堆積、固く締まる）

図 IV -4 -4 試掘坑 2 実測図（1：80）

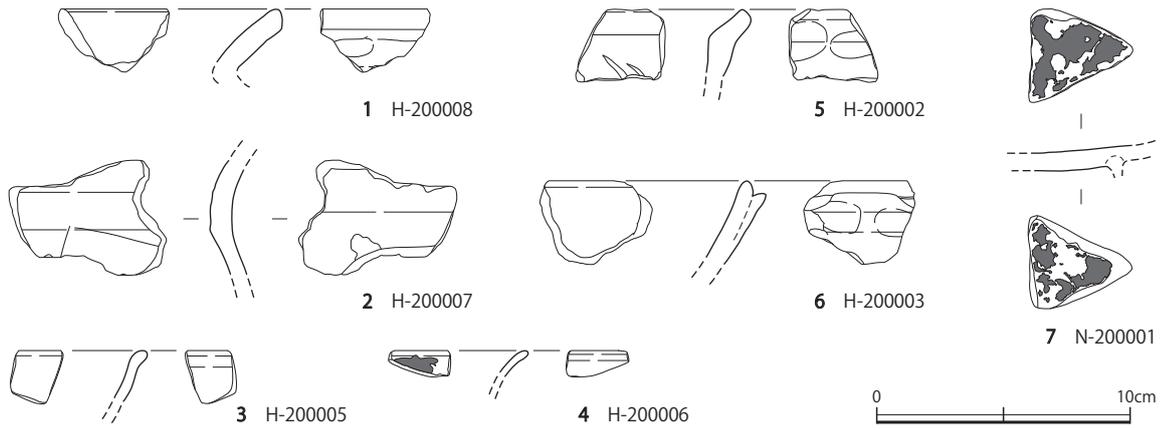


図 IV-4-5 出土遺物実測図 (1 : 3)



写真 IV-4-2 試掘坑1 完掘状況 (南西から)



写真 IV-4-3 試掘坑1 東壁堆積状況 (西から)



写真 IV-4-4 試掘坑2 完掘状況 (北東から)



写真 IV-4-5 試掘坑2 西壁堆積状況 (東から)



写真 IV-4-6 試掘溝1 南壁・西壁下層部



写真 IV-4-7 試掘溝2 西壁下層部堆積状況



下関市文化財年報 1

埋蔵文化財編

—平成 30(2018) 年度～令和 2(2020) 年度の記録—

2025年6月

発行 下関市教育委員会  
下関市大字綾羅木454  
〒751-0866 TEL 083-252-3867